

（単位：千円）

団体名及び所在地	団体規模等	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増△減	主な事業名	事業内容
(公財) 東京都スポーツ協会 (現：(公財) 東京都体育協会) 新宿区霞ヶ丘町4-2 Japan Sport Olympic Square 10階	49競技団体 59地区体育・ スポーツ協会 3学校体育連盟 が加盟	1,274,073	1,223,888	50,185	①東京都スポーツ大会 ②東京都スポーツ大会・東京都障害者スポーツ大会合同 開会式 ③ジュニア育成地域推進事業 ④シニアスポーツ振興事業 ⑤総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の実施 ⑥地域スポーツクラブ中間支援組織事業補助 ⑦地域スポーツクラブ都民参加事業 ⑧競技力向上事業 ⑨パフォーマンスサポート事業 等	・東京都スポーツ大会を開催 ・東京都スポーツ大会と東京都障害者スポーツ大会の合同開会式を開催 ・小中高生を対象とした地域でのスポーツ教室やスポーツ大会などを実施 ・各地区の体育・スポーツ協会や地域スポーツクラブとともに、高齢者を対象としたスポーツ教室や講習会などの事業を実施 ・地域スポーツクラブの質的充実を図る取組を支援 ・中間支援組織として、地域スポーツクラブに対して実施する各種事業を支援 ・地域スポーツクラブが会員に限らず広く都民を対象として行う事業を支援 ・国民スポーツ大会候補選手など東京アスリートの競技力向上事業を実施 ・選手へのスポーツ医・科学に基づいたサポート事業などを実施 等
(公財) 東京都スポーツ文化事業団 渋谷区千駄ヶ谷1-29-9 日本パーティビル3階	—	2,484,677	1,750,480	734,197	①参加型スポーツイベントの開催によるスポーツ振興事業 ②ジュニアスポーツアジア交流大会 ③スポーツ推進企業EnjoySports促進事業 ④スポーツ東京案内 ⑤スポーツ気運継承事業 ⑥都立特別支援学校活用促進事業 ⑦デフリンピック開催支援 ⑧都立スポーツ施設映像配信システム ⑨都立スポーツ施設の連携促進事業 ⑩東京都スポーツ施設予約システム 等	・事業団が実施する参加型スポーツイベントの開催を支援 ・海外各都市からジュニア世代のスポーツ選手や指導者を招き、交流試合や指導者交流を実施 ・スポーツ推進企業に対して、スポーツインストラクター等の派遣を実施 ・Webサイト「スポピタ」の運営や区市町村等への競技・レクリエーション指導者の派遣を支援 ・スポーツイベントの広報を統一的・広域的に実施し、都民のスポーツ情報に触れる機会の創出を支援 ・都立特別支援学校の体育施設を貸し出すとともに、誰もが参加できる体験教室を実施 ・東京2025デフリンピックに向けて、大会の準備・運営を支援 ・都立スポーツ施設で、大会等の映像を配信できるシステムを運用 ・18施設のネットワークを活かした情報発信や共通コンセプトによるイベントの企画・実施等 ・東京都スポーツ施設予約システムの管理運営を実施 等
(公社) 東京都障害者スポーツ協会 新宿区神楽河岸1-1 飯田橋セントラルプラザ12階	—	820,095	760,144	59,951	①パラスポーツ地域サポート事業 ②障害者のスポーツ施設利用促進事業 ③パラスポーツ人材の活動活性化事業 ④TOKYOパラスポーツチャンネル ⑤パラスポーツ次世代ホープ発掘事業 ⑥パラスポーツ競技活動支援事業 ⑦東京パラアスリート強化事業 ⑧東京都障害者スポーツ大会 等	・区市町村や各団体等への事業相談・サポート、指導員派遣、用具貸与等を行う事業を支援 ・障害者が身近なスポーツ施設を利用する際の配慮や工夫等の事例を収集・発信し、施設管理者等へ普及啓発を実施 ・パラスポーツ指導員や障害者スポーツボランティア等の活動を促進し、資質向上に向けた取組を実施 ・東京近郊で開催される大規模なパラスポーツ大会等をテレビ・Webで中継・配信 ・パラスポーツの次世代ホープを発掘・育成 ・競技団体が行う選手の強化や指導者の養成等を支援 ・東京ゆかりのパラアスリートの競技活動支援や、スタッフの活動環境の整備等を行う事業を実施 ・東京都障害者スポーツ大会の開催及び全国大会への派遣選手の選考 等

令和6年度 スポーツ団体（社会教育関係団体等）補助金・分担金事業（案）【スポーツ関係】

資料1-1

（単位：千円）

団体名及び所在地	団体規模等	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増△減	主な事業名	事業内容
（一財）東京マラソン財団 江東区有明3-7-26 フロンティアビルB棟8階	—	359,824	341,054	18,770	①東京マラソンの開催補助 ②マラソン祭りの開催 ③東京レガシーハーフマラソンの開催補助 ④TOKYO SPORTS LEGACY FES ⑤参加型スポーツイベントの開催によるスポーツ振興事業	<ul style="list-style-type: none"> 東京マラソンの開催に係る安全対策費等の経費を負担 マラソン祭りの開催に係る運営費等の経費を負担 東京レガシーハーフマラソンの開催に係る安全対策費等の経費を負担 東京レガシーハーフマラソンの開催に合わせ、障害の有無等に関わらず、誰もが楽しめるスポーツイベントを開催 マラソン財団が実施する参加型スポーツイベントの開催を支援
（公財）東京2025世界陸上財団 （現：（一財）東京2025世界陸上財団） 新宿区霞ヶ丘町4-2 Japan Sport Olympic Square	—	1,824,779	0	1,824,779	①世界陸上開催支援	<ul style="list-style-type: none"> 東京2025世界陸上開催に向けて、大会の準備・運営を支援
（一社）東京都レクリエーション協会 渋谷区千駄ヶ谷1-29-9 日本パーティビル3階	地域団体、 種目団体、 領域団体等 計71団体が 加盟	16,674	16,364	310	①都民スポレクふれあい大会 ②シニアスポーツ振興事業 ③東京みんなのスポーツ塾	<ul style="list-style-type: none"> 子供から高齢者までを対象とした、ニュースポーツやレクリエーション大会を開催 レクリエーション団体とともに、高齢者を対象としたスポーツ教室や講習会などの事業を実施 ニュースポーツの指導者養成を目的とした講習会を実施
（一社）東京都スポーツ推進委員協議会 新宿区西新宿6-12-6 コアロード西新宿1302	59地区協議会 1,492人	2,520	2,520	0	①東京都スポーツ推進委員研修会	<ul style="list-style-type: none"> 相互の連携を図り、資質の向上を目的とする研修会を開催 （課題別研修会、地区別研修会（11ブロック）及び地域スポーツ支援研修会）
東京都市町村スポーツ協会連合会 （現：東京都市町村体育協会連合会） 府中市寿町2-2-47 ジュネス寿407	30市町村	910	910	0	①東京都市町村総合スポーツ大会	<ul style="list-style-type: none"> 市町村に居住する社会人を対象とした総合スポーツ大会の開催に係る運営費等を負担
競技団体等	—	2,363,057	4,503,395	△ 2,140,338	①国際大会の誘致・開催支援【中央競技団体等】 ②デフスポーツ競技団体都内活動促進事業 【デフスポーツ中央競技団体】 ③デフリンピックチャレンジ事業【中央競技団体等】 ④アーカイブ資産の活用【JOC】 ⑤GRAND CYCLE TOKYOの推進 等 【GRAND CYCLE TOKYO実行委員会】	<ul style="list-style-type: none"> 都内で国際スポーツ大会の開催を目指す競技団体等に対し、誘致活動や開催等を支援 デフスポーツ団体（中央競技団体）が都内で実施する、主催大会、強化練習会等に係る活動を支援 東京2025デフリンピックに向けて、選手発掘・活動支援プログラムを実施 アーカイブ文書が適切に利活用される環境を整えるため、管理責任を持つJOCを支援 臨海部において「レインボーライド」を実施するとともに、令和7年度に多摩地域で開催する「THE ROAD RACE TOKYO」に向けて、コース設計や開催準備等を実施 等

令和6年度 スポーツ団体（社会教育関係団体）補助金・分担金事業（案）【学校体育関係】

資料1-2

(単位：千円)

団体名及び所在地	団体規模等	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増△減	事業名	事業内容
東京都高等学校体育連盟 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	都内高等学校が加盟	4,646	4,646	〇	東京都高等学校総合体育大会	約13,000名の高校生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等35種目が行われる（4月中旬～2月下旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都中学校体育連盟 文京区本郷1-3-3 東京都教職員研修センター409室	都内中学校が加盟	5,596	5,596	〇	東京都中学校総合体育大会	約21,000名の中学生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等20種目が行われる（5月中旬～1月上旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都高等学校体育連盟定時制通信制部 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	都内定時制・通信制高校が加盟	3,459	3,459	〇	東京都高等学校定時制通信制総合体育大会	約4,000名の定時制・通信制の高校生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等13種目が行われる（9月中旬～11月下旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都ろう学校体育連盟 東京都葛飾区西亀有2丁目58-1 都立葛飾ろう学校内	都内ろう学校が加盟	833	833	〇	東京都ろう学校総合体育大会	約300名のろう学校の生徒が参加して開催される総合体育大会。野球等3種目が行われる（8月中旬～9月下旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟 東京都葛飾区金町2-14-1 東京都立葛飾特別支援学校	都内特別支援学校・特別支援学級設置学校が加盟	1,814	1,814	〇	東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会	約4,800名の生徒が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等6種目が行われる（9月中旬～2月中旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
日本中学校体育連盟 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 Japan Sport Olympic Square 401号室	全国の中学校在加盟	0	7,000	△ 7,000	全国中学校体育大会	令和5年度は、東京都でアイスホッケーの1種目を開催。令和6年度は、北信越ブロックで開催、東京都での開催種目なし。
全国高等学校定時制通信制軟式野球連盟 八王子市台町3-25-1 都立八王子拓真高等学校内	全国の定時制・通信制高校が加盟	835	835	〇	全国高等学校定時制通信制軟式野球大会	地域代表22校約400名の定時制・通信制の生徒が参加して開催される全国軟式野球の大会（8月中旬、明治神宮野球場ほか）
全国高等学校体育連盟定時制通信制部会 千代田区一ツ橋1-1-1 全国高等学校体育連盟内	全国の都道府県高等学校体育連盟定時制通信制部会が加盟	765	765	〇	全国高等学校定時制通信制体育大会	地域代表の定時制・通信制の生徒が参加して開催される全国大会。東京では、陸上競技をはじめ6種目が行われる（7月下旬～8月中旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
関東聾学校体育連盟 （関東聾学校卓球大会東京大会実行委員会） 立川市栄町1-15-7 都立立川学園内	関東地域の1都9県のろう学校が加盟	200	200	〇	関東聾学校体育大会	関東地区のろう学校の代表が参加して開催される大会。令和6年度の東京開催は、卓球1種目。（8月下旬、駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場）
関東高等学校体育連盟 栃木県宇都宮市東谷660-1 県立宇都宮高校内	関東地域の1都7県高等学校体育連盟が加盟	1,200	1,200	〇	関東高等学校体育大会	関東地区の高等学校代表生徒が参加して開催される大会。令和6年度は東京で陸上競技等6種目が行われる。
関東中学校体育連盟 文京区本郷1-3-3 東京都教職員研修センター409室	関東地域の1都7県中学校体育連盟が加盟	400	400	〇	関東中学校体育大会	関東地区の中学校代表生徒が参加して開催される大会。令和6年度は陸上競技・テニスの2種目が行われる。

都民のスポーツ活動に関する調査結果について（報告）

令和5年度 都民のスポーツ活動等に関する実態調査

令和5年度 障害者のスポーツに関する意識調査

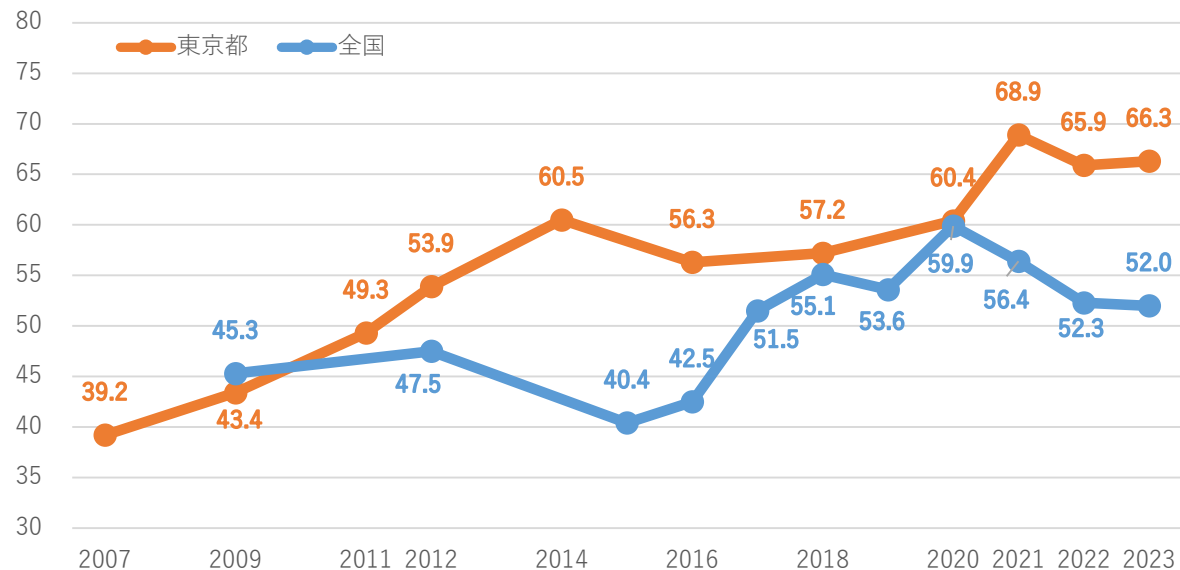
都民のスポーツ活動等に関する実態調査

調査概要

- ・ 調査対象/期間/有効回収数：都内に居住する18歳以上の個人/2023年10月1日～同月31日/1,524標本
- ・ 調査方法：郵送（インターネット回答併用）
- ・ 主な調査項目：都民のスポーツ実施率、パラスポーツに関心がある人の割合

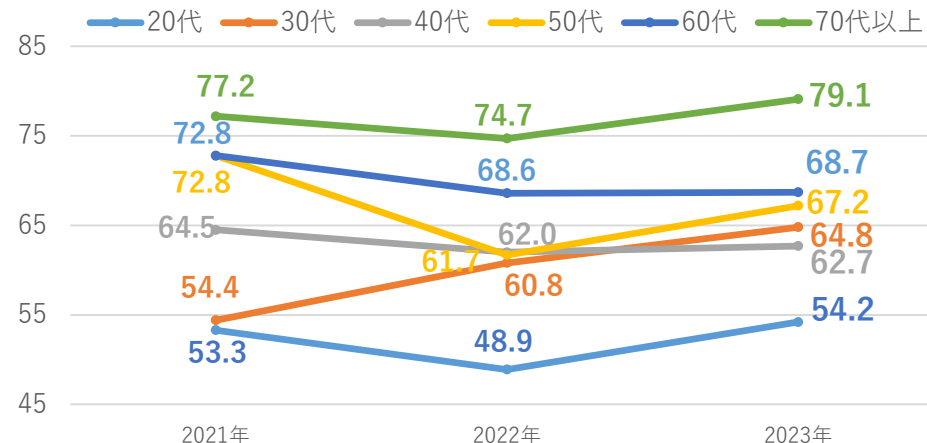
調査結果

(1) 都民のスポーツ実施率

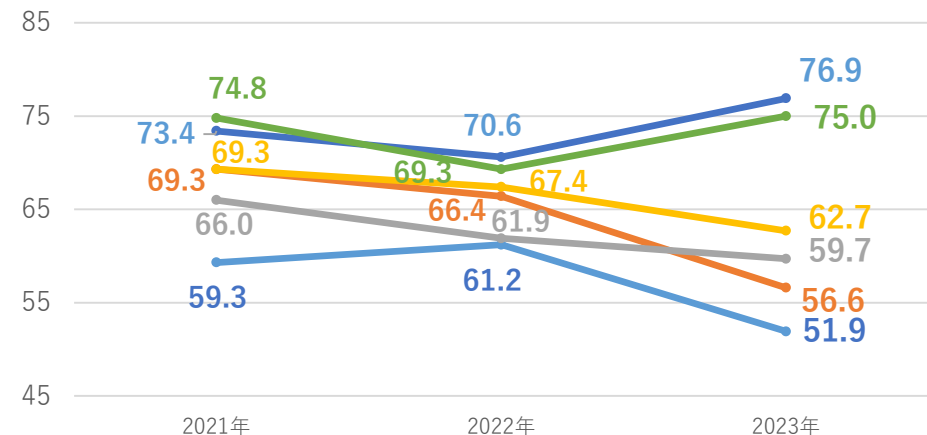


都民のスポーツ実施率は、全国の実施率より高水準で推移
 2022年の都民のスポーツ実施率は65.9%であり、全国の52.0%と
 比べ14.3ポイント上回っている

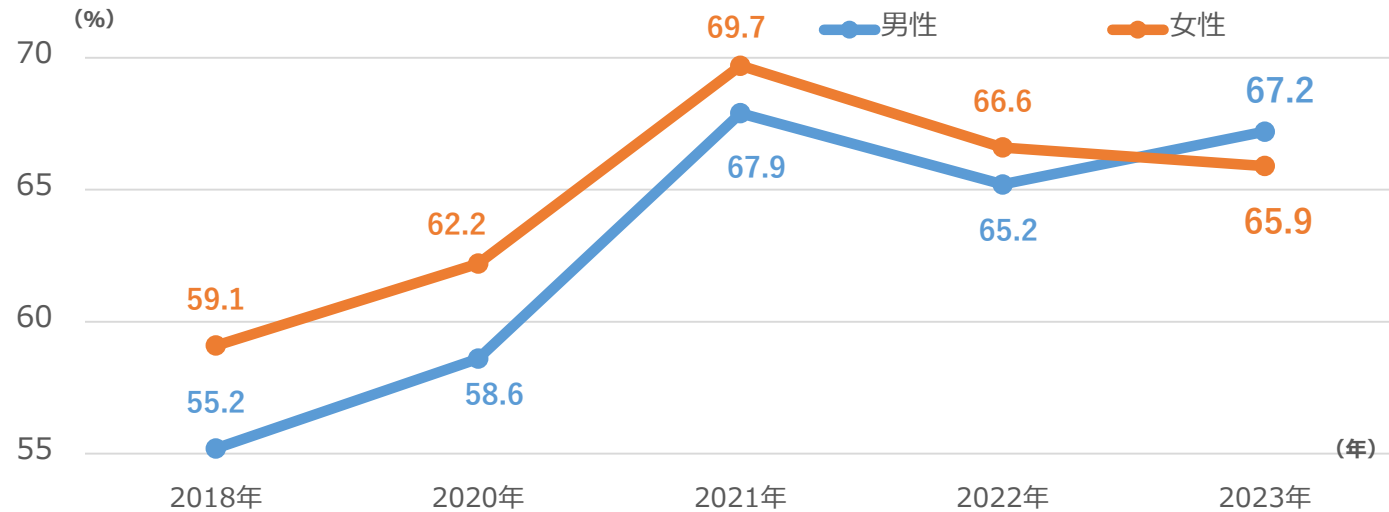
世代別実施率推移 (男性)



世代別実施率推移 (女性)



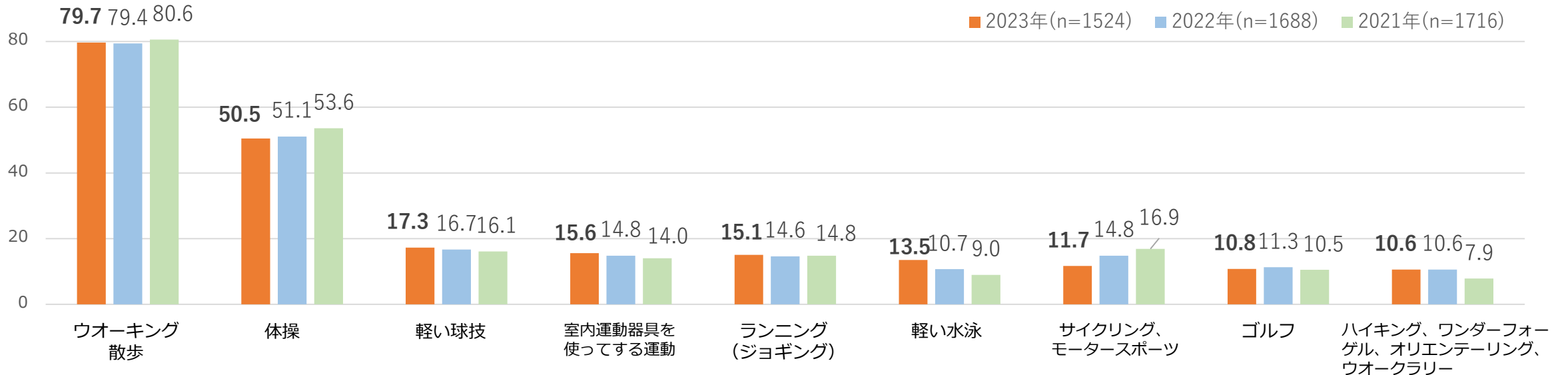
<男性・女性の実施率の推移>



これまで男性の実施率より女性の実施率の方が、高水準で推移してきたが、2023年に男性の方が1.3ポイント上回った

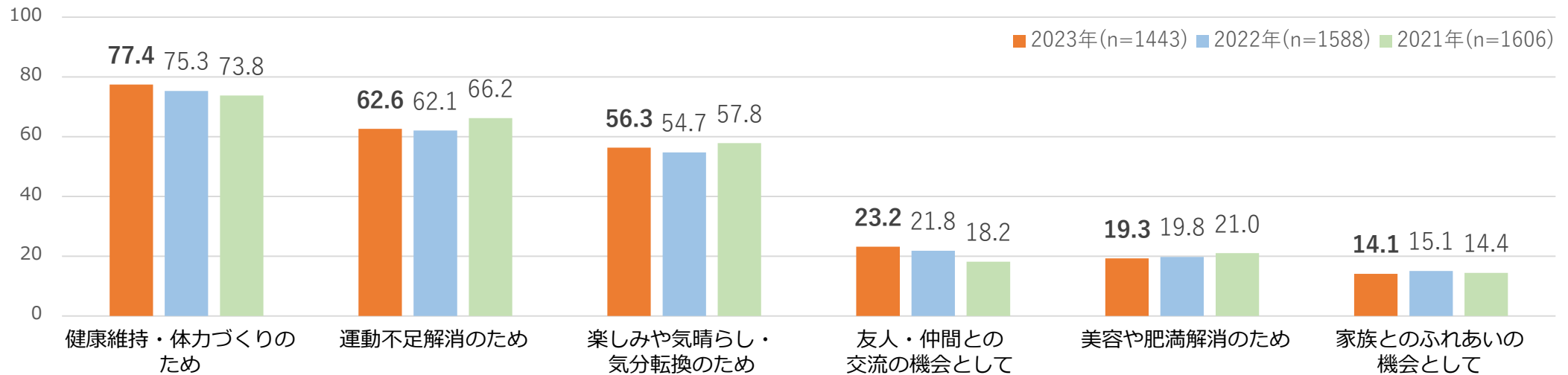
(2) 実施したスポーツや運動

※10%以上実施された種目を抜粋



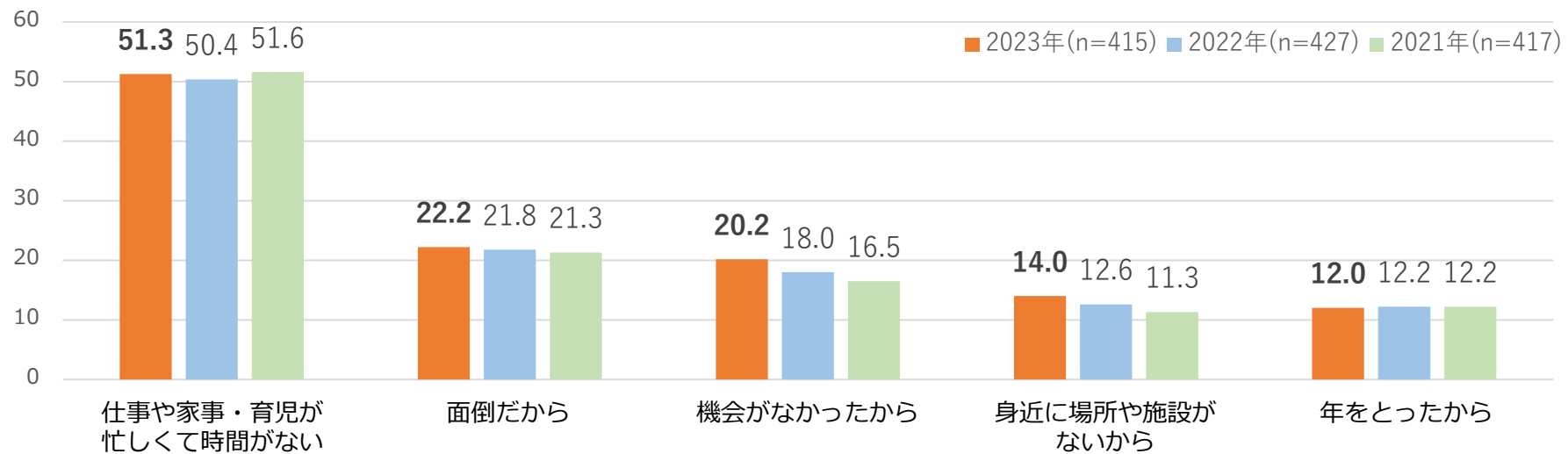
ウォーキングや体操等、身近なところで一人でも取り組める運動種目が、高い水準を維持

(3) スポーツや運動を実施した理由 ※10%以上回答のあった選択肢を抜粋



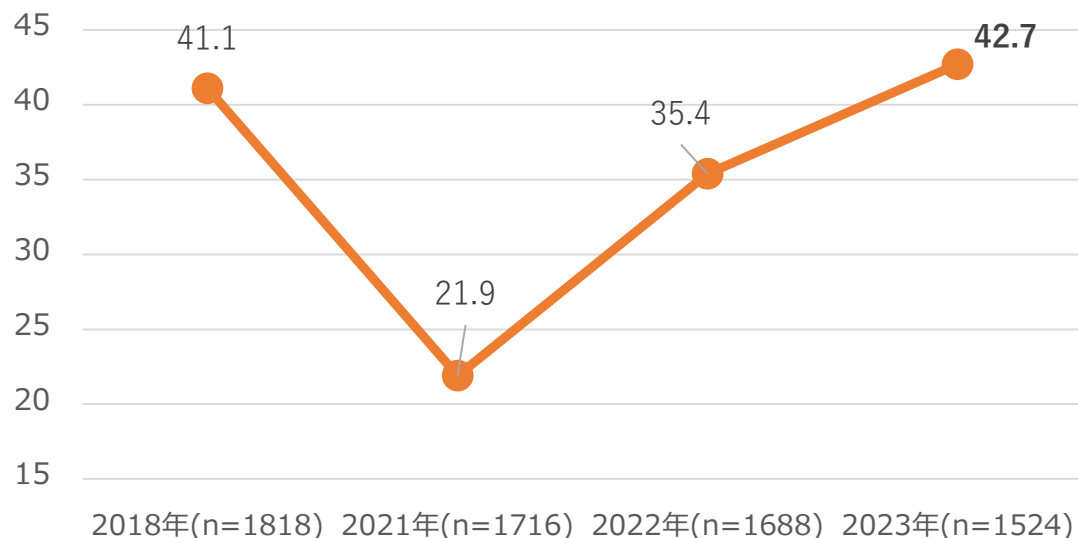
「健康維持・体づくり」を目的としたスポーツ実施者が年々増加しているほか、コロナの収束に伴い「友人・仲間との交流」を目的としたスポーツ実施者も年々増加

(4) 実施頻度が週1日に満たなかった理由 ※10%以上回答のあった選択肢を抜粋



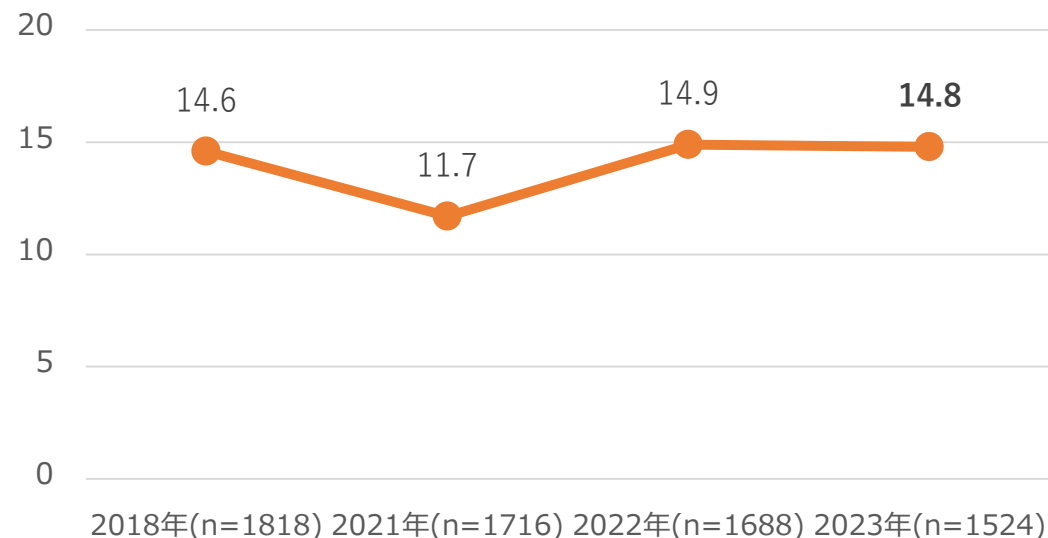
「仕事や家事・育児が忙しくて時間がない」が依然として5割を超える高い水準

(5) スポーツを直接観戦した都民の割合



スポーツを直接観戦した人は、2022年に比べ7.3ポイント増え42.7%に増加
コロナ前の水準も超えた

(6) スポーツを支える活動を行った都民の割合



コロナ禍での落ち込みから復調傾向にあるが、2023年は横ばいで推移

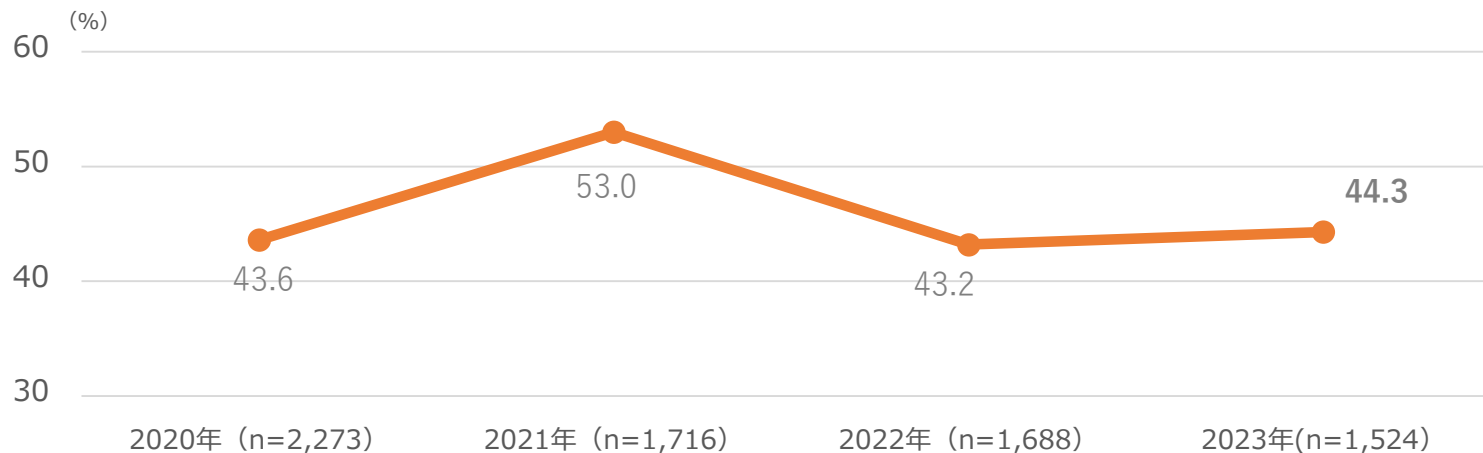
<今後の方向性>

運動・スポーツを始めるためのきっかけ作りや、身近な運動機会の提供など積極的に展開

(実施する取組例)

- ▶ スポーツを通じた従業員の健康増進に取り組む企業等の認定・支援や、親子で一緒に運動をする機会や場を提供するなど、**仕事や家事・育児などをしながらも運動に触れられる機会を提供**
- ▶ 区市町村が実施するスポーツ振興事業に対する支援を拡充させるなど、**身近な場でスポーツに触れられる機会を拡充**
- ▶ スポーツ大会やスポーツイベントの開催、スポーツ観戦事業などにより、**更なるスポーツ気運を醸成**

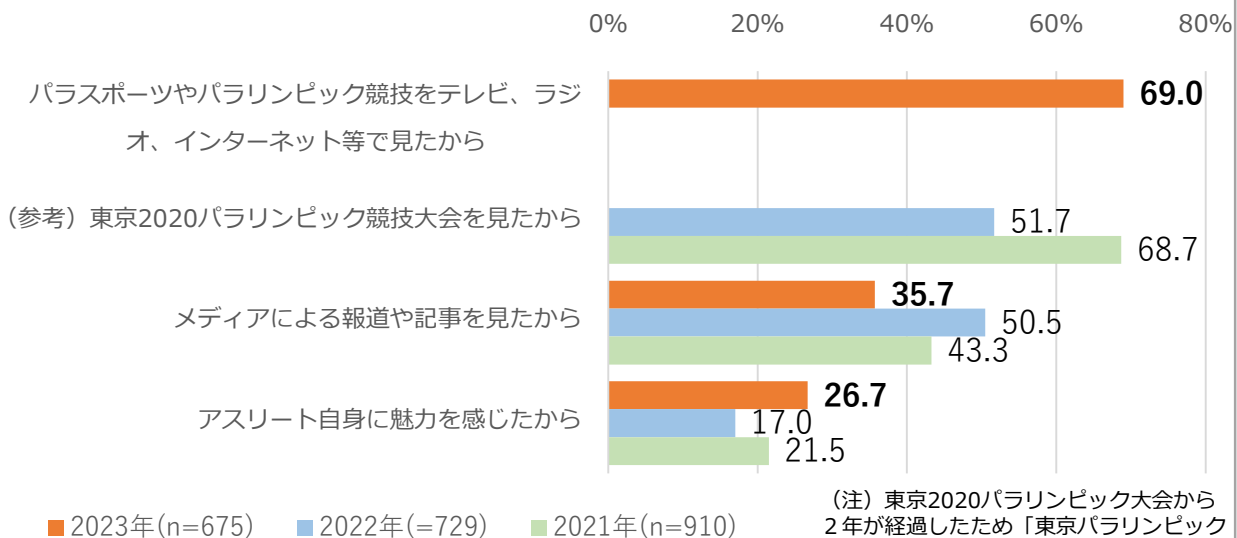
(7) パラスポーツの関心度



パラスポーツに関心がある人は、2022年に比べ1.1ポイント増え44.3%に増加

(8) 関心を持ったきっかけ

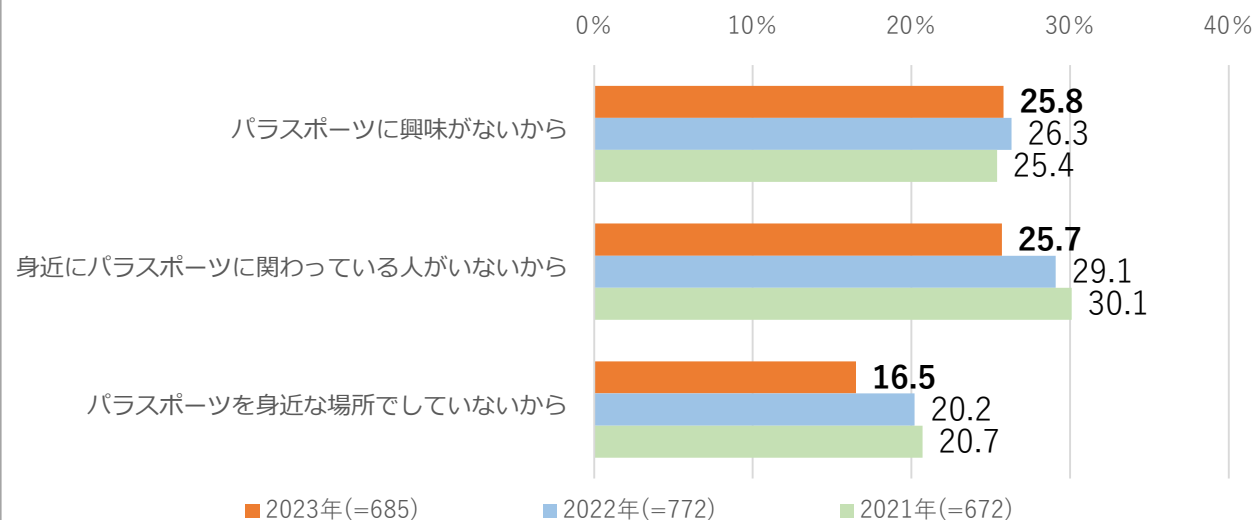
※上位3項目を抜粋



「テレビ、ラジオ、インターネットで見たから」が約7割

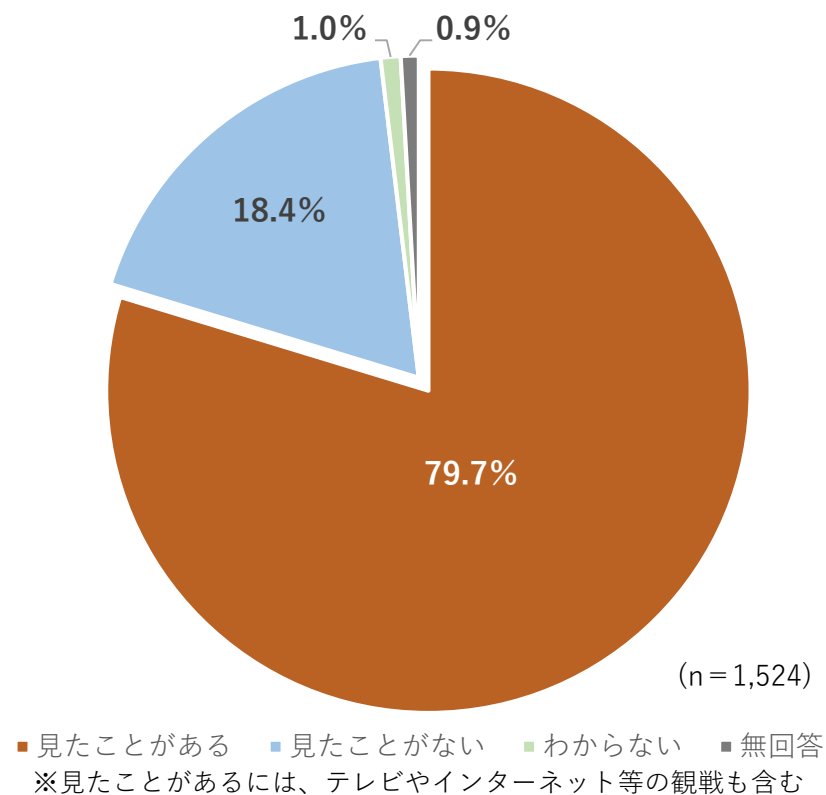
(9) 関心がない理由

※上位3項目を抜粋



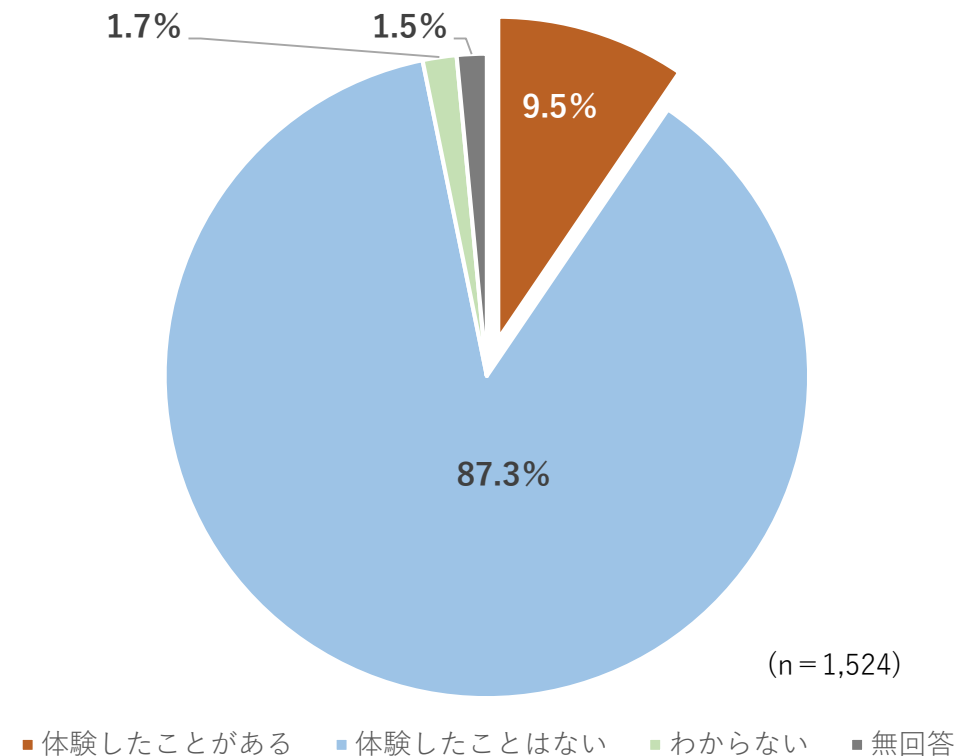
「身近に関わっている人がいないから」、「身近な場所ではないから」と関心がない理由に「身近」が多く挙がっている

(10) パラスポーツを見た経験



パラスポーツを見たことがある人は約8割

(11) パラスポーツを体験した経験



パラスポーツを体験したことがある人は約1割

<今後の方向性>

身近でパラスポーツを知る・見る・体験する機会を提供

(実施する取組例)

- ▶ パリ2024大会の盛り上がりに関心度向上に繋げるため、9月に記念イベントを開催
- ▶ ショッピングモールや自治体イベント、オフィスロビー等の身近な場所で知る・体験する機会を拡充
- ▶ 都内近郊の大会の中継・配信のほか、競技会場での観戦機会を提供

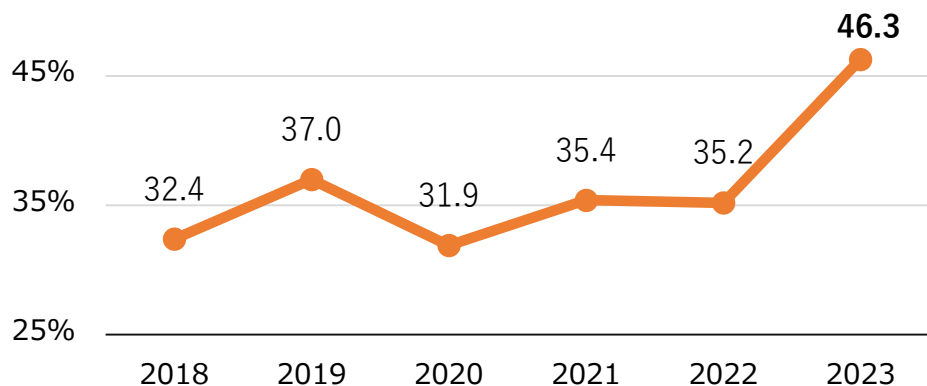
障害者のスポーツに関する意識調査

■ 調査概要

- ・ 調査対象 都内に居住する障害者本人、または同居する家族に障害者がいる方（7歳以上）
- ・ 調査対象者の障害種別 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害
- ・ 期間/有効回収標本数 2023年9月4日～同月21日 / 3,226標本（うち18歳以上 2,719標本、7～17歳 507標本）
- ・ 調査方法/主な調査項目 インターネット調査/障害者のスポーツ実施率（週に1日以上スポーツや運動を実施した人の割合）

※政策目標を「2030年までに18歳以上のスポーツ実施率50%達成」としているため、**本資料では18歳以上の数値を掲載**

(1) 障害者のスポーツ実施率

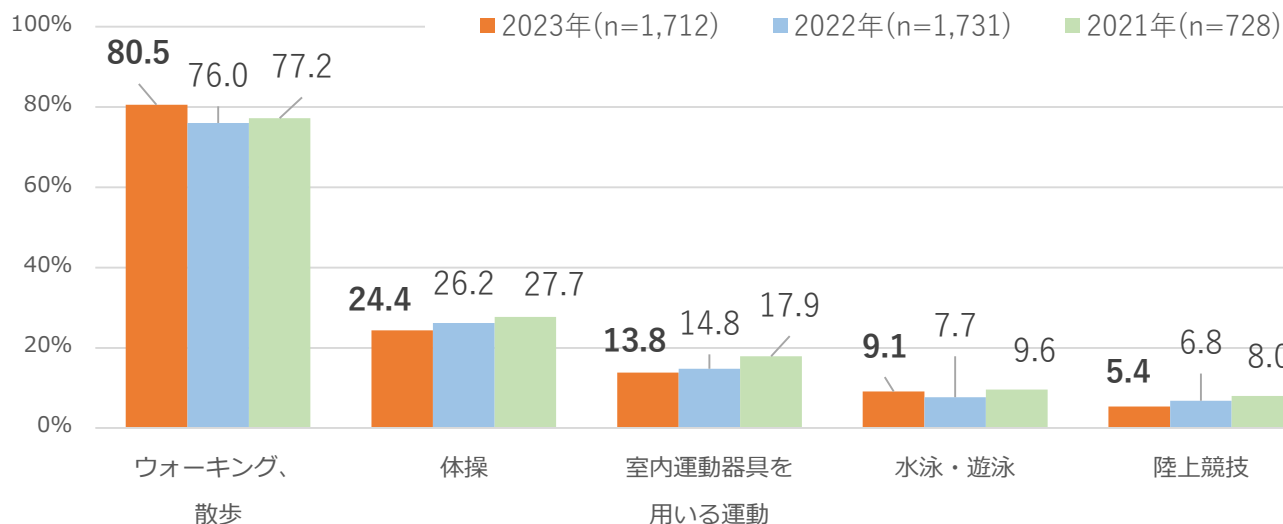


・ 2023年の障害者のスポーツ実施率（週に1日以上スポーツや運動を実施した人の割合）は**46.3%**
昨年と比較して**11.1ポイントの増加**

- ・ なお、「この1年間になんらかのスポーツ・運動を行った」人は63.0%
- ・ 一方、「この1年間に全くスポーツ・運動を行わなかった」人は37.0%

(2) この1年間に実施したスポーツ・運動

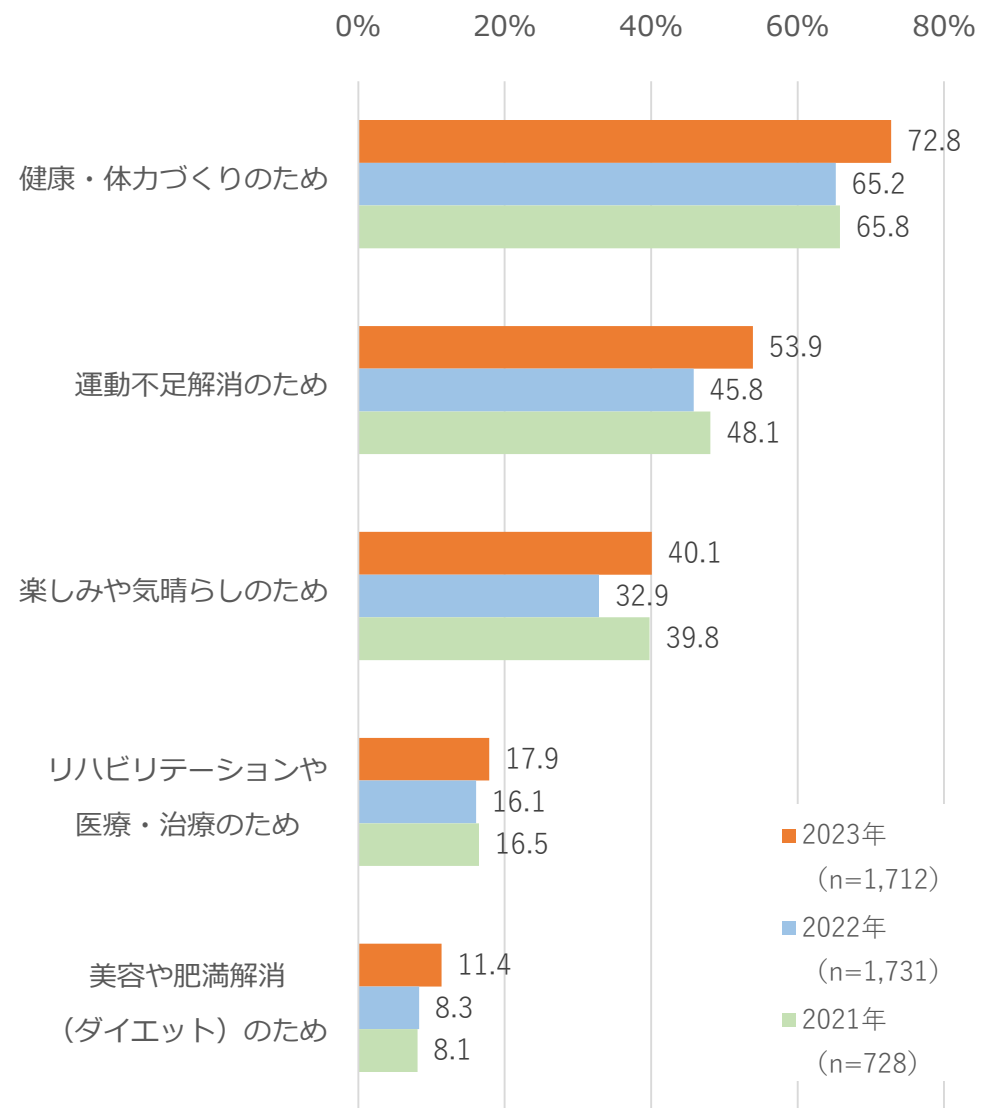
- * この1年間になんらかのスポーツ・運動を行ったと回答した方が対象
- * 上位5項目を抜粋



「ウォーキング、散歩」など、**取り組みやすい運動を実施した人が引き続き多い**

(3) スポーツ・運動を実施した理由

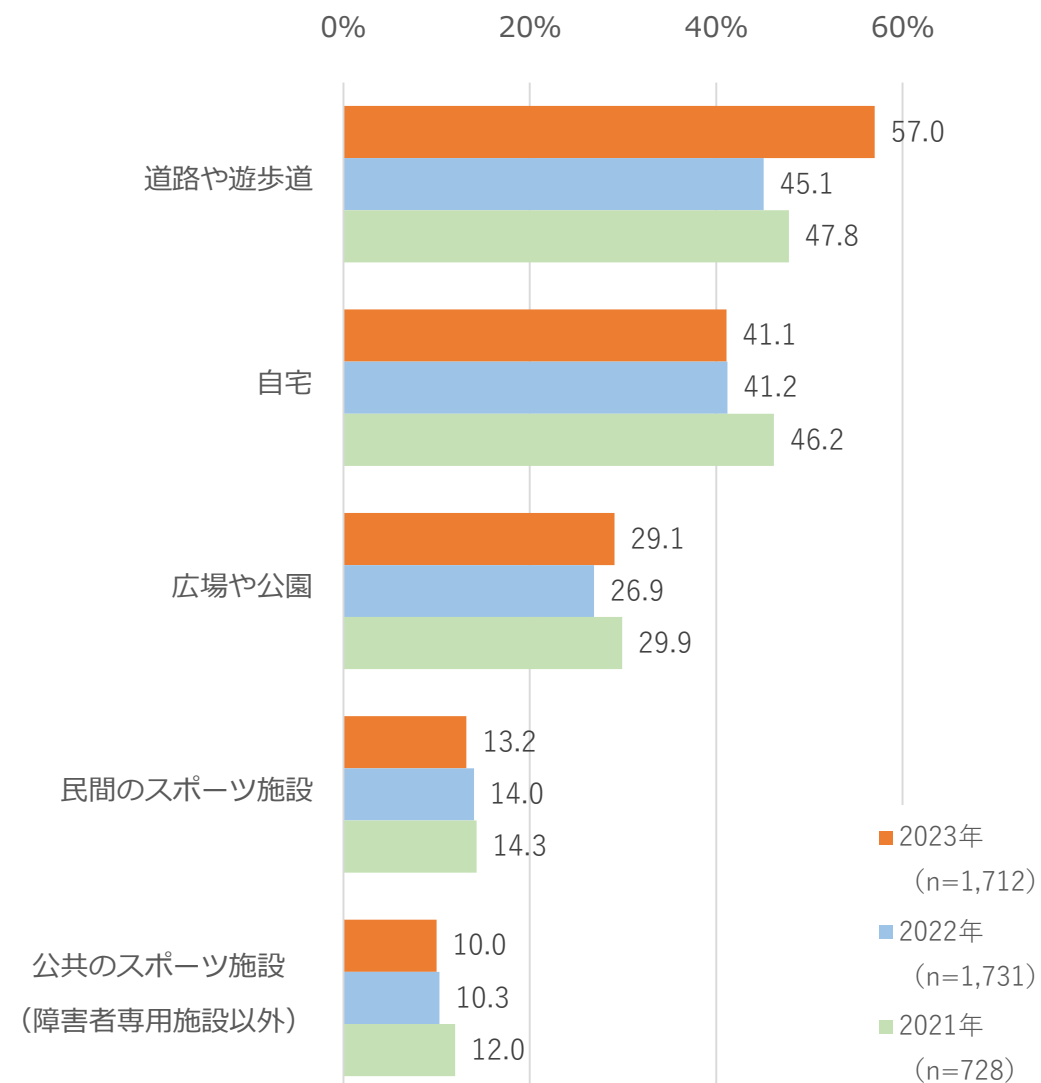
*この1年間になんらかのスポーツ・運動を行ったと回答した方が対象
*上位5項目を抜粋



「健康・体力づくり」、「運動不足解消」のために運動を行う人が増加

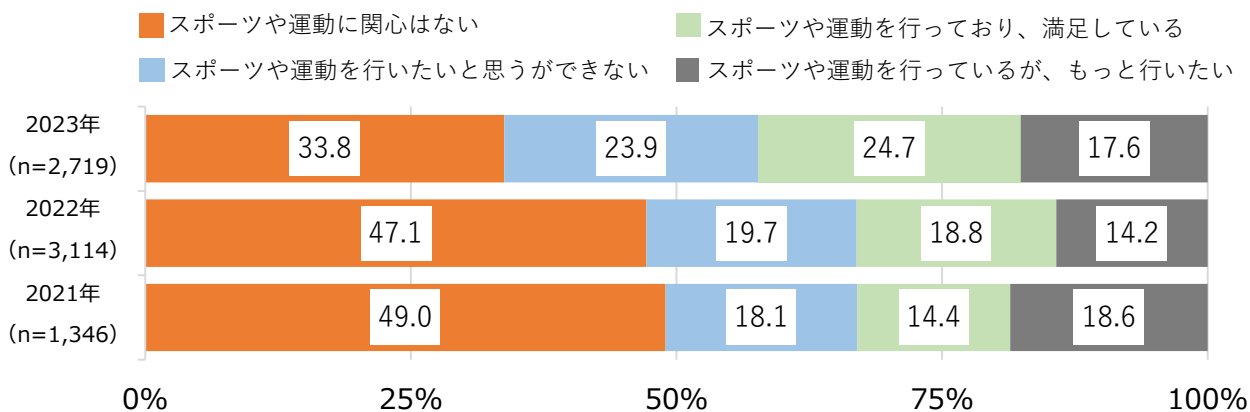
(4) スポーツ・運動を実施した場所

*この1年間になんらかのスポーツ・運動を行ったと回答した方が対象
*上位5項目を抜粋



「道路や遊歩道」「広場や公園」など、屋外で運動を行う人が増加 8

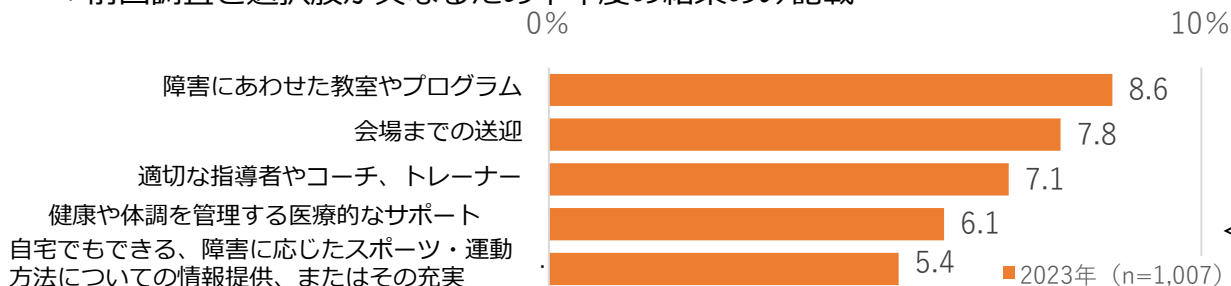
(5) スポーツ・運動の取組状況



スポーツや運動に「関心がない」、「できない」人が全体の5割超

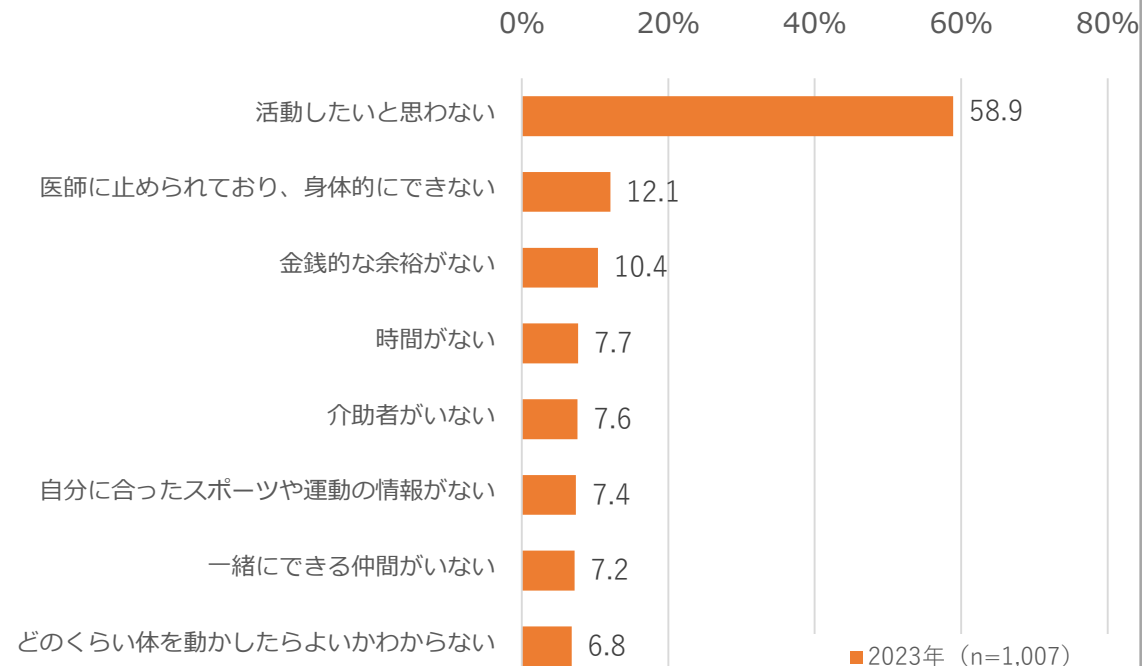
(7) スポーツや運動を始めるきっかけとして必要な支援

- * 「この1年間にスポーツ・運動を実施しなかった方」が対象
- * 上位5項目を抜粋（「わからない」「特になし」を除く）
- * 前回調査と選択肢が異なるため単年度の結果のみ記載



(6) スポーツ・運動を実施しない理由

- * 「この1年間にスポーツ・運動を実施しなかった方」が対象
- * 上位8項目を抜粋（「その他」を除く）
- * 前回調査と選択肢が異なるため単年度の結果のみ記載



実施しない理由は「活動したいと思わない」が58.9%で最多

必要な支援は「障害に合わせた教室やプログラム」が8.6%で最多

<今後の方向性>

運動したい人が機会を逃さず取り組めるよう環境整備を進めるとともに、非実施者がスポーツに触れられる多様な機会を確保

(実施する取組の例)

- ▶ 都立特別支援学校でのスポーツ教室の実施、区市町村が実施するパラスポーツ振興事業に対する支援など、**身近な地域における場の確保**
- ▶ 福祉施設など**日常の居場所で継続的に運動に取り組める機会を充実**
- ▶ バーチャルスポーツや分身ロボット等のデジタル技術を活用し、心身上の様々な理由で**外出が困難な方や体を動かしづらい方、無関心層がスポーツに気軽に触れられる機会を拡充**

東京都スポーツ推進総合計画の改定について

- 第1回審議会の振り返りについて（次期計画総論部分）
 - 次期計画期間とその先を見据えた議論について
 - 第1回審議会の振り返り（次期計画各論部分）と今後の審議について
-

1. 第1回審議会の振り返りについて（次期計画総論部分）

【第1回審議会で扱った内容（次期計画の総論部分に該当するもの）】

- | | |
|---|----------------------|
| ① 都のスポーツを取り巻く環境や社会状況の変化 | ③ 次期計画で取り扱う「スポーツ」の範囲 |
| ② 現行計画期間中の主な取組と成果、
現行計画で掲げた各指標の推移と今後の課題・施策の方向性 | ④ スポーツの価値 |
| | ⑤ 次期計画の計画期間 など |



【第1回審議会でいただいた主なご意見】

① 都のスポーツを取り巻く環境や社会状況の変化に関するもの

- ・（次期計画の終了年である）2030年は都の人口が減少し始める時期であり、今後のスポーツ振興の基盤を次期計画の6年間で作り上げておく必要がある。
- ・ 高齢化の加速とともに人口が減少していく中で、スポーツの担い手の確保、競技団体の体制強化、インテグリティの向上、安心してスポーツができる地盤づくりなどを進めることが非常に重要であり、スポーツ自体の持続可能性を考える必要がある。
- ・ 目標値（スポーツ実施率）を上げることだけではなく、スポーツ振興全体で何を達成するかということを議論したい。

② 現行計画期間中の主な取組と成果、現行計画で掲げた各指標の推移と今後の課題・施策の方向性に関するもの

- ・ スポーツ実施率が着実に向上し、70%という国よりも高い目標をほぼ達成に近い水準まで引き上げたという点は、大変意義深い。
- ・ 障害者のスポーツ実施率が上がっているのは、東京2020大会の成果の一つと感じている。なお、ハード面は大変整備されたと実感しているが、今後はソフト面も充実させていくことで、スポーツ、そしてパラスポーツが更に盛んになっていくと思う。
- ・ スポーツに取り組むことが都民の幸せに結びついているかどうか、つまり量から質への転換を考える必要がある。

③ 次期計画で取り扱う「スポーツ」の範囲に関するもの

- ・ スポーツを、より特別ではないもの、日常的なもの、日常に入り込んだものとして捉えることが必要で、伝え方を変えていくことも必要。
- ・ 競わないスポーツが主流になってきている。自身のフィットネスレベルを高める、自分の健康やメンタルへの好影響等を求めてスポーツをする方が非常に増えている。
- ・ 今後は新たなデジタルの力を活用したスポーツを実施していくことも大切。

④ スポーツの価値に関するもの

- ・ スポーツ実施率を上げていく取組は、大切な社会投資の一つである（健康になる、まちが元気になる、医療費の抑制に繋がる、など）。
- ・ スポーツがどのようにして社会課題を解決し、個人に帰属するスポーツの価値を社会化していくのかが大きな課題。例えば、健康維持のために役立っていた通勤や人と人とのつながりが働き方改革に伴い失われたが、文化とスポーツという両軸で、社会を潤いに満ちたものにしていくことが必要である。
- ・ スポーツの「外在的価値」だけでなく、「内在的価値」もモニタリングできることになれば、スポーツを支援する取組として非常に意味がある。

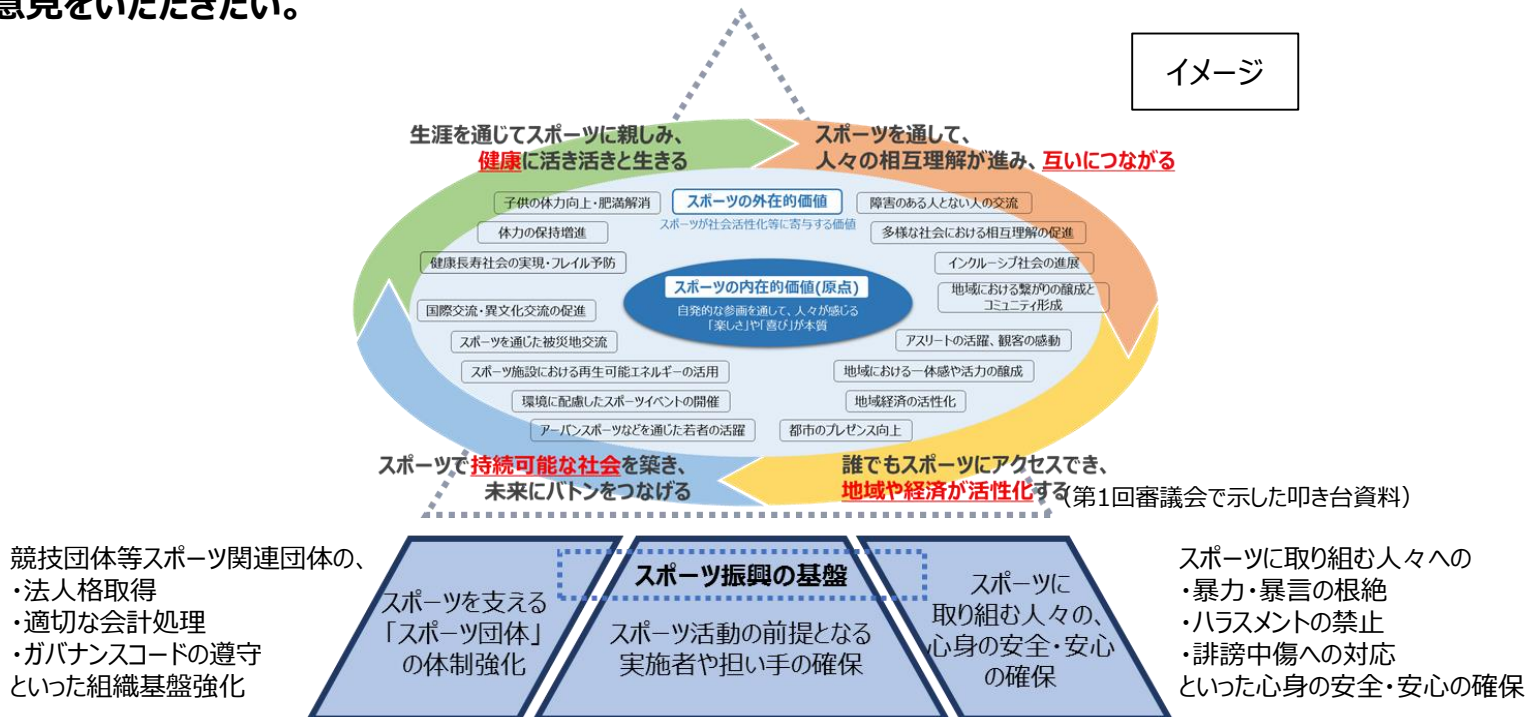
2. 今回の審議会の議題について（次期計画期間とその先を見据えた議論について）

【第1回審議会でいただいたご指摘】（再掲）

- ・（次期計画の終了年である）2030年は都の人口が減少しはじめる時期であり、今後のスポーツ振興の基盤を次期計画の6年間で作り上げておく必要がある。
- ・高齡化の加速とともに人口が減少していく中で、スポーツの担い手の確保、競技団体の体制強化、インティグリティの向上、安心してスポーツができる地盤づくりなどを進めることが非常に重要であり、スポーツ自体の持続可能性を考える必要がある。
- ・目標値（スポーツ実施率）を上げるだけでなく、スポーツ振興全体で何を達成するかということを議論したい。

参考資料「第29期第1回東京都スポーツ振興審議会における委員の主な意見の概要」より一部抜粋・要約

上記のご指摘を踏まえ、今回の審議会では、次期計画の終了年である2030年やその先の社会状況も見据えながら、人口減少や少子高齡化の中でも都民一人ひとりが生き生きとスポーツに取り組める環境を維持していくためにはどうすればよいか、ご意見をいただきたい。

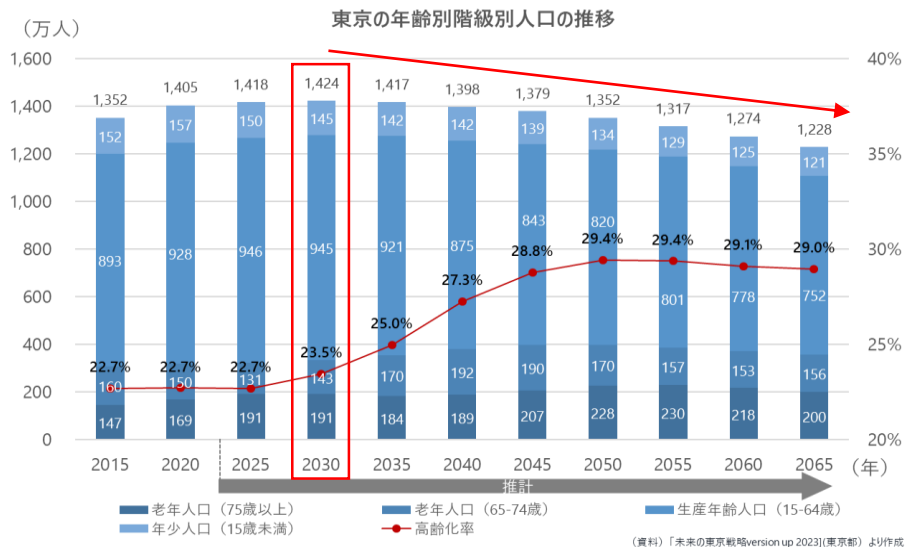


2. 次期計画期間とその先を見据えた議論について

○ 次期計画期間中の主なスポーツ関連のトピックと、都における人口減少・少子高齢化の状況



2030年とその先の状況



都の人口の推移

東京都の人口は、2030年をピークに年々減少。
高齢化率は、2025年以降、大きく上昇。

(「未来の東京戦略version up 2023」(東京都))

都税収入の推移

就業者数の減少などにより、実質経済成長率が低下して
いくことから、都税収入の伸び率は低下していく。

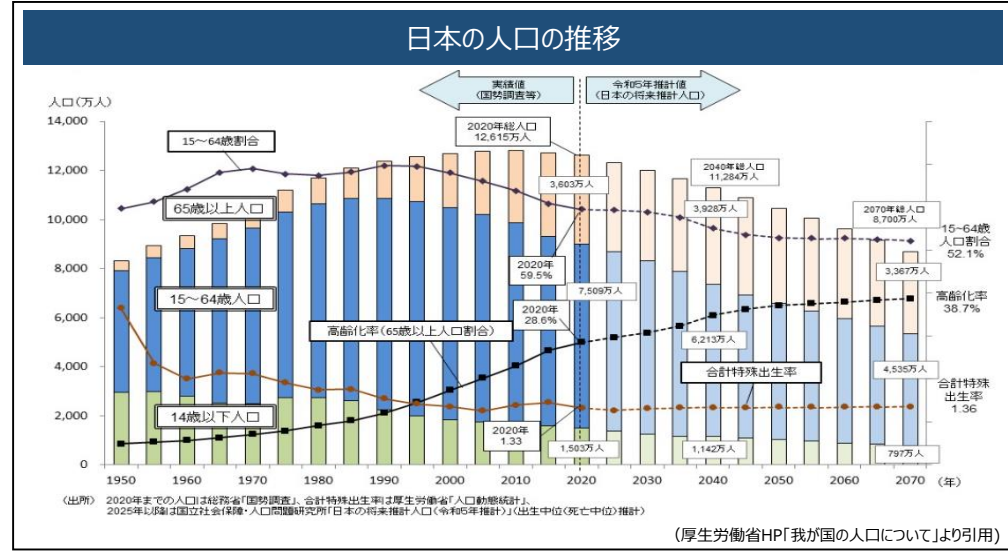
(「東京都の財政収支の長期推計」(東京都))

2. 次期計画期間とその先を見据えた議論について（参考資料：高齢化・外国人関係）

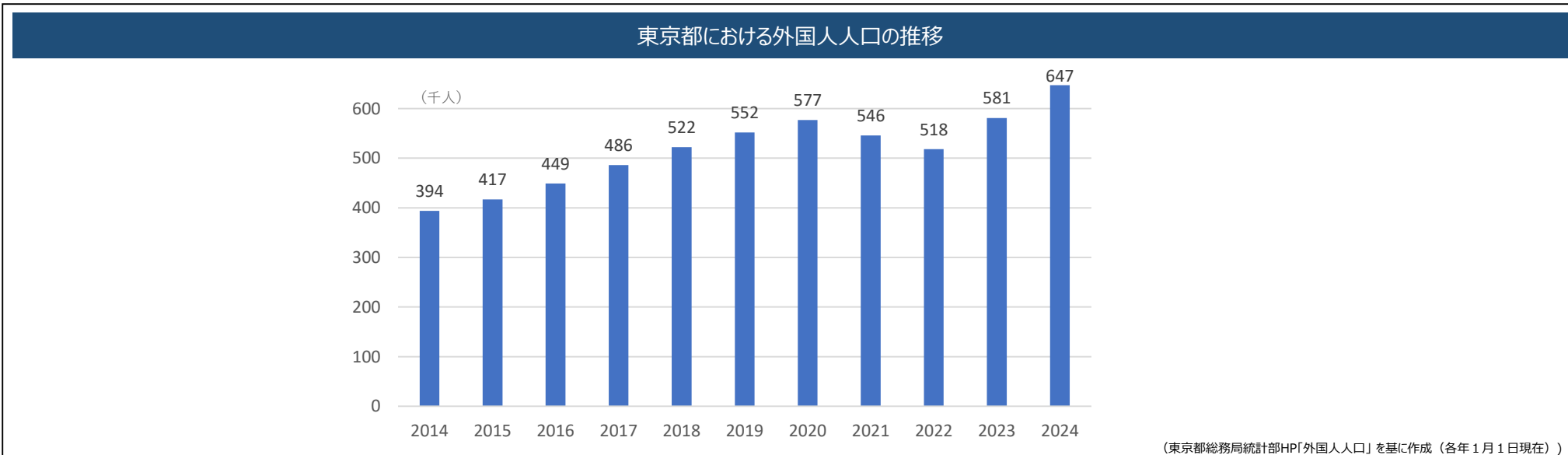
- 75歳以上の単独世帯が東京の全世帯に占める割合は増加傾向にあり、2030年は8.2%と推計されている。今後、高齢者の孤独が進行することが考えられる。



- 日本の人口は、2010年をピークに減少を続けており、2030年以降も減少することが見込まれている。また、2070年には総人口が9,000万人を割り込むと推計されている。



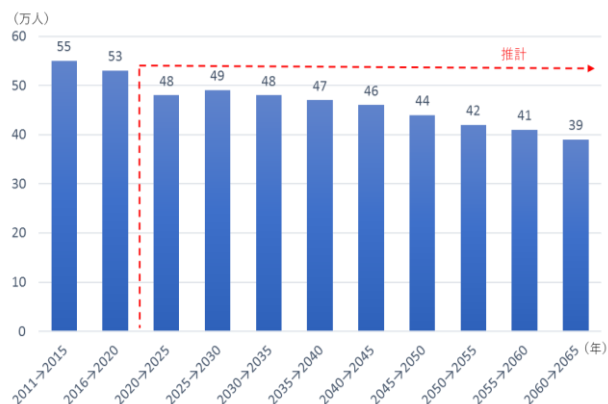
- 都内在住外国人は、2024年1月現在、約64万7千人（都内人口の約4.6%）であり、増加傾向にある。



2. 次期計画期間とその先を見据えた議論について（参考資料：子供関係）

- 出生数は減少傾向が続いており、2030年以降も減少していくことが見込まれている。

東京の出生数の推移

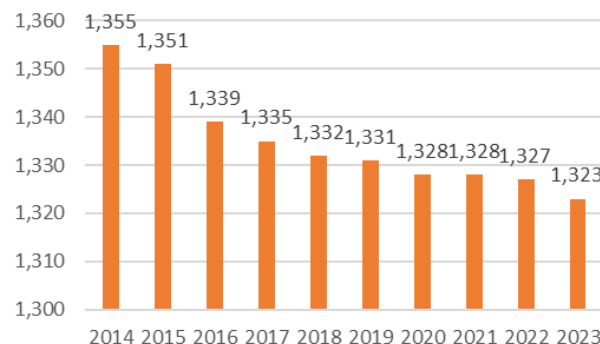


（「未来の東京」戦略 附属資料 東京の将来人口（令和5年1月）を基に作成）

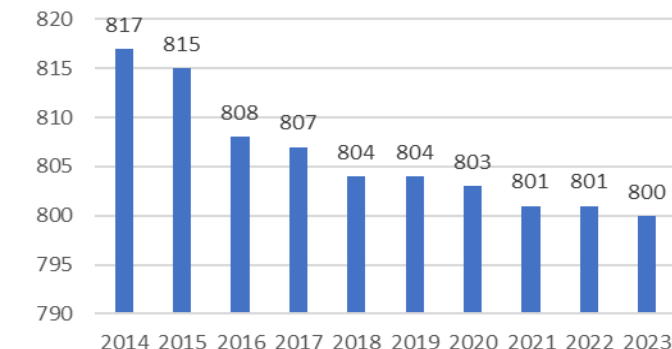
- 2023年度における都内小学校の学校数は、2014年度の1,355校から32校減少し、1,323校となっている。また、2023年度における都内中学校の学校数は、2014年度の817校から17校減少し、800校となっている。

都内小学校・中学校数の推移

小学校数の推移（国・公・私立）
（学校数）



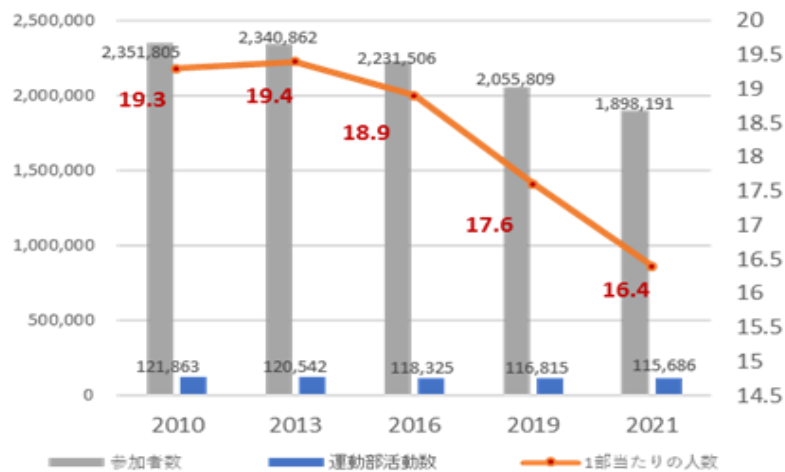
中学校数の推移（国・公・私立）
（学校数）



（東京都総務局統計部「令和5年度学校基本統計」を基に作成）

- 運動部参加者数は、2013年から2021年にかけて442,671人減少している。また、1部当たりの人数も19.4人から16.4人と3人減少している。

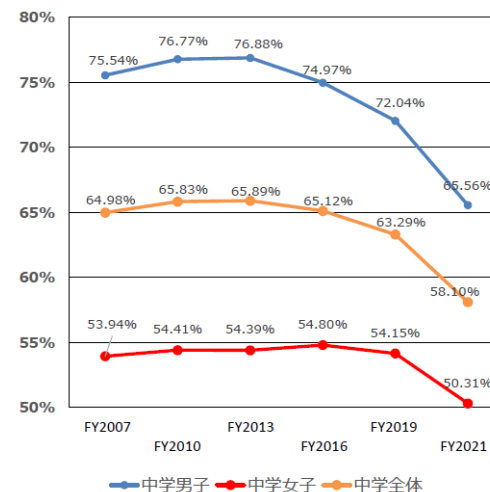
運動部活動 参加者数（中学校）



（スポーツ庁HP「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 参考資料集」より引用）

- 運動部活動の参加率は、中学生男子・女子ともに減少しており、2021年には、中学全体で58.1%となっている。

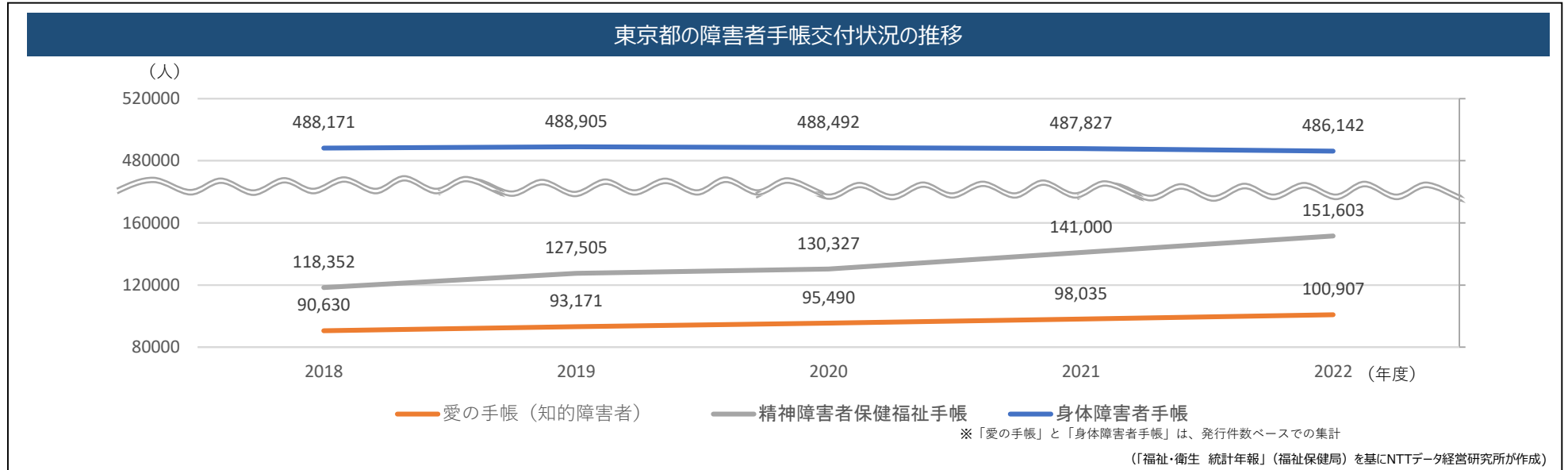
運動部活動 参加率（中学校）



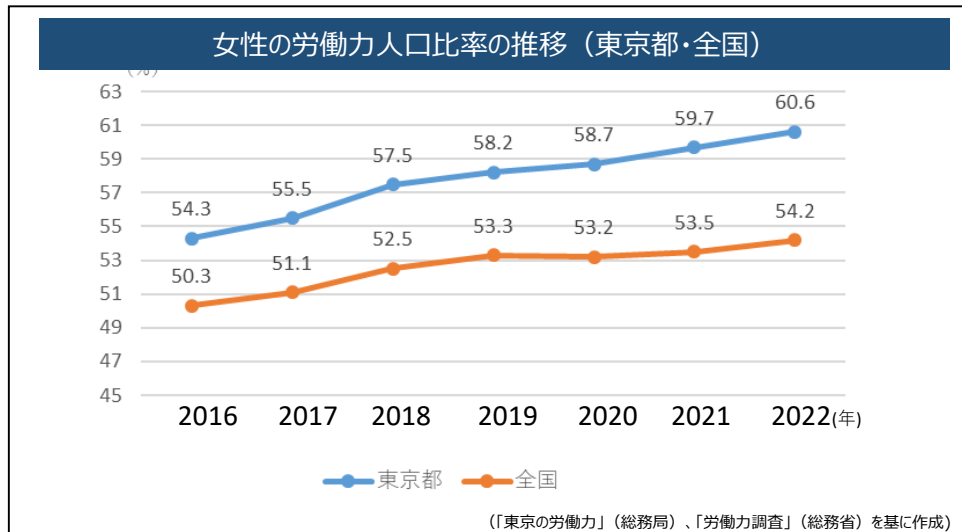
（スポーツ庁HP「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 参考資料集」より引用）

2. 次期計画期間とその先を見据えた議論について（参考資料：障害者・労働関係）

- 身体障害者手帳の交付件数は横ばいだが、知的障害者「愛の手帳」交付件数及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は一貫して増加している。



- 東京は女性の労働力人口比率が高く、全国と比べて女性の社会進出が促進されていることが伺える。また、2016年の54.3%から6.3ポイント上昇しており、推移も増加傾向にある。



- 総実労働時間は、全国・東京ともに緩やかに減少していたが、2020年以降増加傾向にある。また、2021年以降、全国に比べて東京の総実労働時間が長くなっている。



2. 次期計画期間とその先を見据えた議論について（ご意見をいただきたい論点）

2030年及びその先の人口減少・少子高齢社会を見据え、「スポーツ自体の持続可能性」をどのように維持していくか（2030年以降への備えも含め、次期計画期間中に、地域におけるスポーツ環境を維持していくため実施しておかないといけないことは何か。）

▶▶視点の例

★スポーツを「する」

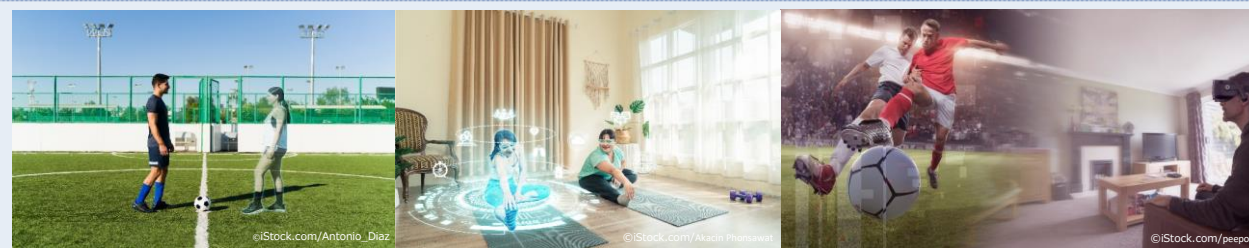
- スポーツ実施者の減少・高齢化への対応
- 世界で活躍できるアスリートの確保・育成
- 安心・安全なスポーツ環境の確保
- スポーツ行政の財政的・人的リソースが限定的になる可能性を踏まえ、
 - ・ 多様な主体の巻き込みや連携の必要性（区市町村、スポーツ関連団体、プロスポーツチーム、民間企業等）
 - ・ 行政によるスポーツ振興として何を達成していくか

★人口減少・少子高齢化以外でスポーツを取り巻く環境が大きく変容していく可能性、要素

- スポーツの範囲の広がり（競わないスポーツ、デジタルを活用したスポーツ）
- 都内在住外国人数の増加
- 子どもたちのスポーツ実施のあり方の変化（学校部活動以外で多様なスポーツを楽しんでいる）
- 障害者を始め、誰もがスポーツを楽しんでいる共生社会の進展
- スポーツ産業の発展の可能性（プロリーグ・チームの増加）

★スポーツを「支える」

- 担い手の減少・高齢化への対応
- 競技団体の組織基盤強化
- スポーツ・インテグリティの向上



デジタルを活用したスポーツのイメージ（する、みる）

これら課題を乗り越え、人口減少・少子高齢化の中でも地域におけるスポーツ環境を維持し誰もがスポーツの価値を享受できる「スポーツフィールド東京」を実現することで、都民一人ひとりのウェルビーイングの向上と、社会全体の幸福度の最大化を実現していく。

3. 第1回審議会の振り返り（次期計画各論部分）と今後の審議について

【第1回審議会で扱った内容（次期計画の各論部分に該当するもの）】

- 次期計画の方向性（スポーツの持つ価値やスポーツがもたらす効用を踏まえた、スポーツを通じて実現していくべき社会像） など

【第1回審議会でいただいた主なご意見】

○ スポーツを通じた、健康増進や長寿

- ・ スポーツによる健康を考えると、「心身ともに健康に」という形で「心と身体」をセットで捉える必要がある。
- ・ 企業による健康経営の取組や、親子で参加できる運動の普及などにより、働き盛り世代や子育て世代の健康を向上させていくことが望ましい。

○ スポーツを通じた、共生社会の実現やつながりの創出

- ・ 今後は障害者スポーツセンターの体制強化や地域の公共スポーツ施設における障害者の受け入れの充実、プロセスやノウハウの可視化が非常に重要になる。
- ・ 外国人と地域をつなげるツールとしてスポーツを活用することも一つの考え方である。文化の相互理解という面でも良い効果があるのではないか。
- ・ スポーツ選手になれなくても、色々な形（審判、テレビ局関係者、経営者、ボランティア等）でスポーツに関係していくことはでき、そうした文化を創っていけると良い。
- ・ 東京都を構成する区市町村と連携を密にして、都民の健康づくりに尽力をしていただきたい。

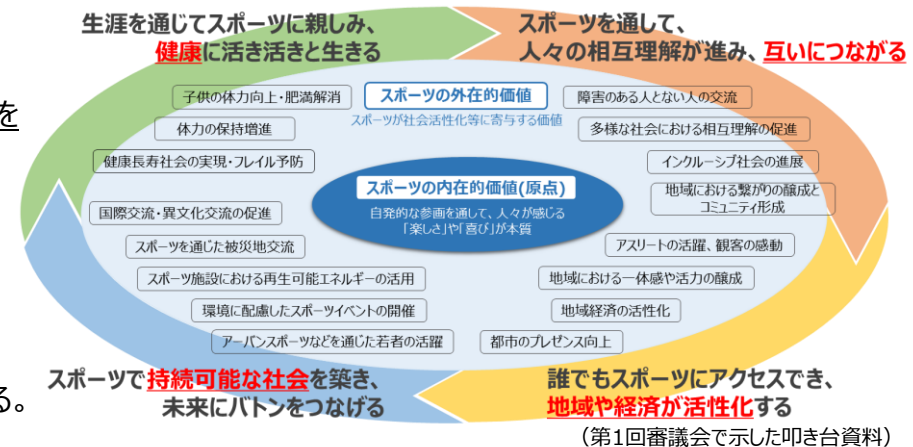
○ スポーツを通じた、地域・経済の活性化

- ・ フレイル予防や健康寿命延伸のためにも、障害がある方も高齢の方も地域で安心してスポーツができる場の創出を計画に盛り込む必要がある。
- ・ 公的機関が、スポーツ団体やスポーツ関係企業等と連携し、スポーツ環境を整えることで、積極的なスポーツ振興につながる。

○ スポーツを通じた、社会の持続可能性への貢献

- ・ 「持続可能な社会にスポーツがどう貢献するのか」という課題は、今の国際社会においてスポーツに求められる最も重要な部分である。
- ・ スポーツを通して感じる気候変動に対する危機感を、スポーツを通じて発信し、訴えていくことが、スポーツの果たせる役割ではないか。
- ・ SDGsの取組について、特別に何か始めなければいけないと考えるよりは、今行っている活動を少し見直すだけでもいいのではないか。

参考資料「第29期第1回東京都スポーツ振興審議会における委員の主な意見の概要」より一部抜粋・要約



今後の審議会で、「スポーツと健康」、「障害者スポーツの振興」、「スポーツによる地域の活性化」等について、委員からご講演をいただき、それを基に意見交換していただくことで、議論を深めていく。（仮）

第 29 期第 1 回東京都スポーツ振興審議会における 委員の主な意見の概要

【都のスポーツを取り巻く環境や社会状況の変化】

- 2030 年は都の人口が減少しはじめる時期であり、今後のスポーツ振興の基盤を次期計画の 6 年間でつくり上げていく必要がある。高齢化の加速とともに人口が減少していく中で、スポーツの担い手の確保、競技団体の体制強化、インテグリティの確保、安心してスポーツができる地盤づくりが非常に大切であり、スポーツの持続可能性を考える必要がある。
- 目標値（スポーツ実施率）を上げるだけでなく、スポーツ振興全体で何を達成するかということを議論する必要がある。

【現行計画期間中の主な取組と成果、現行計画で掲げた各指標の推移と今後の課題・施策の方向性】

- スポーツ実施率が着実に向上し、70%という国よりも高い目標をほぼ達成に近い水準まで引き上げたという点は、大変意義深い。
- 障害者のスポーツ実施率が上がっているのは、東京 2020 大会の成果の一つ。なお、ハード面は大変整備されたと実感しているが、今後はソフト面も充実させていくことで、スポーツ、そしてパラスポーツが更に盛んになっていくと思う。
- スポーツに取り組むことが都民の幸せに結びついているかという基準、つまり量から質への転換を考える必要がある。
- スポーツの今後について、インテグリティの確保やコンプライアンスの徹底を図る上での体制強化や、人口減少や高齢化が進む中でどのような体制でスポーツ振興を進めるのか、都立スポーツ施設の指定管理の在り方、学校スポーツの地域連携など、様々な課題があり、それぞれ議論していく必要がある。

【スポーツの範囲】

- スポーツを、より特別ではないもの、日常的なもの、日常に入り込んだものとして捉えることが必要。それに基づいて伝え方を変えていくことも必要。
- 競わないスポーツが主流になってきている。自身のフィットネスレベルを高める、自分の健康やメンタルへの影響等を求めてスポーツをする方が非常に増えている傾向にある。競わないスポーツの在り方をしっかり追求していくべき。
- 新たなデジタルの力を活用してスポーツを実施することも大切である。

【スポーツの価値】

- スポーツ実施率を上げていく取組は、大切な社会投資の一つである。（健康になる、

まちが元気になる、医療費の抑制に繋がる)

- スポーツがどのようにして社会課題を解決し、個人に帰属するスポーツの価値を社会化していくのかが非常に大きな課題。例えば、健康維持のために役立っていた通勤や、人と人とのつながりが働き方改革に伴い失なわれたが、文化とスポーツという両軸で、社会を潤いに満ちたものにしていくことが必要である。
- スポーツの「外在的価値」だけでなく、「内在的価値」をモニタリングできれば、スポーツを支援する取組として非常に意味がある。

【生涯を通じて健康に生きる】

- スポーツによる「健康」を考えると、「心身ともに健康に」という「心と身体」をセットで捉える必要がある。

(担い手の確保)

- スポーツ推進委員の人員が不足しており、認知度を高め、成り手を増やしていく必要がある。

(子供のスポーツ)

- スポーツを通じて励まし、みんなで応援する等の経験がスポーツ好きの子供を育てることにつながる。
- これから将来を担う子供たちのスポーツ環境をいかに充実させていくか、その機会をつくっていくことが大事である。
- 女子のスポーツ嫌いの原因として、「周囲から見られていること」、「グループをつくる煩わしさ」、「競技に対する生徒の意識の差と競技能力の優劣による差」があげられる。

(働き盛り・子育て世代)

- 企業による健康経営の取組や、親子で参加できる運動の普及などにより、働き盛り世代や子育て世代の健康を向上させていくことが望ましい。

【相互理解が進み、互いにつながる】

- パラスポーツの振興は、一般の方にスポーツを広げるツールにもなっていることから、継続していく必要がある。
- 障害者スポーツセンターが、これまで以上にいろいろな役割、機能を果たすためには体制の強化が必要である。
- 地域の公共スポーツ施設における障害者の受け入れが非常に重要であり、ソフト面、ハード面両方において、これまで以上の充実、プロセスやノウハウの可視化が求められる。
- 周りの方のサポートがなければスポーツに触れることができない方に向けて、機会の提供や場所を整備していくことが必要である。

- 外国人と地域をつなげるツールとしてスポーツを活用することも一つの考え方である。文化の相互理解という面でも良い効果があるのではないか。
- スポーツ選手になれなくても、審判、テレビ局、経営者、ボランティア等いろいろな形でスポーツに携わることができ、そうした文化を創っていけると良い。
- 都と 62 区市町村が連携を密にして、都民の健康づくりを支援していく必要がある。

【地域・経済の活性化】

- フレイル予防、健康増進、健康寿命延伸のためにも、障害がある方も高齢の方も地域で安心してスポーツができる場の創出を計画に盛り込む必要がある。
- ジュニア世代の世界大会の開催は、子供たちが同世代の活躍を見るなどの経験をすることができ、共生社会について考える機会となる。
- 民間のスポーツ事業者を地域のスポーツ振興の重要な担い手として位置づけ連携することで、スポーツ産業の活性化を図って欲しい。
- 公的機関が、スポーツ団体や企業等と連携し、スポーツ環境を整えることで、積極的なスポーツ振興につながる。

【持続可能な社会】

- 「持続可能な社会にスポーツがどう貢献するのか」という課題は、今の国際社会においてスポーツに求められる最も重要な部分である。共生社会に資するスポーツ、SDGs の達成のためにスポーツをどう活用するのかという視点について、実現に貢献できるよう審議会委員として協力していく。
- スポーツをすることで感じる気候変動に対する危機感を、スポーツを通じて発信していくことが、スポーツの果たせる役割である。
- 持続可能性、SDGs の取組について、特別に何か始めなければいけないと考えるより、今行っている活動を少し見直すだけでもいいのではないか。

生活文化スポーツ局〔スポーツ総合推進費・スポーツ施設費〕 令和6年度予算(概要)

I 事業体系と予算額

(単位：千円)

事業名	令和6年度 予算	令和5年度 予算額	増(△)減
スポーツ総合推進費	11,222,670	10,578,759	643,911
スポーツ総合推進管理事務	305,365	316,800	△ 11,435
スポーツの振興	3,412,980	3,298,690	114,290
生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興 (Ⅱ-1参照)	1,335,518	1,211,973	123,545
区市町村におけるスポーツ振興施策への支援 (Ⅱ-2参照)	748,000	748,000	0
スポーツムーブメントの創出 (Ⅱ-3参照)	218,326	262,468	△ 44,142
競技スポーツの振興 (Ⅱ-4参照)	750,185	743,509	6,676
スポーツを通じた被災地交流事業 (Ⅱ-5参照)	22,100	32,669	△ 10,569
大会のレガシーを継承する取組 (Ⅱ-6参照)	338,851	300,071	38,780
パラスポーツの振興 (Ⅱ-7参照)	2,087,660	1,984,525	103,135
開拓整備事業	703,789	604,164	99,625
人材育成事業	67,578	67,578	0
理解促進事業	800,003	839,490	△ 39,487
競技力向上事業	325,467	322,708	2,759
東京都障害者スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会	190,823	150,585	40,238
国際スポーツ大会等の開催 (Ⅱ-8参照)	5,416,665	4,978,744	437,921
世界陸上・デフリンピック開催支援	2,958,278	449,185	2,509,093
国際大会を契機としたスポーツ気運醸成等	485,979	453,129	32,850
ユニバーサルコミュニケーションの促進	174,754	9,650	165,104
国際大会誘致・開催支援	212,440	462,399	△ 249,959
GRAND CYCLE TOKYOの推進	1,146,730	3,188,130	△ 2,041,400
マラソン祭りの開催	438,484	416,251	22,233
スポーツ施設費	16,214,448	13,232,880	2,981,568
スポーツ施設管理事務	123,955	123,498	457
スポーツ施設等の運営 (Ⅱ-9参照)	6,063,859	6,166,711	△ 102,852
スポーツ施設等の企画調整	452,146	348,143	104,003
スポーツ施設等の運営	5,611,713	5,818,568	△ 206,855
スポーツ施設等の整備 (Ⅱ-10参照)	10,026,634	6,942,671	3,083,963
合 計	27,437,118	23,811,639	3,625,479

Ⅱ 主要事業

1 生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興 13億 3,552万円

- 多くの都民が参加できる各種イベント・大会の開催、高齢者の健康維持・増進を図るシニアスポーツ振興事業等を実施
- 地域スポーツクラブの質的充実を図るため登録・認証制度を運用するほか、引き続きクラブ支援事業を実施
- スポーツ推進企業交流サイトの活用、スポーツインストラクター等の派遣など、スポーツ推進企業の取組を促進

2 区市町村におけるスポーツ振興施策への支援 7億 4,800万円

- 区市町村のスポーツ施設の統合・再編、改修等による新たなスポーツ活動の場の創出や設備の高効率化に加え、世界陸上・デフリンピックの競技会場等の整備に資する事業を支援
- 区市町村が実施するスポーツ振興や障害者の継続的なスポーツ実施に資する事業に加え、世界陸上・デフリンピックの気運醸成につながる取組を支援

3 スポーツムーブメントの創出 2億 1,833万円

- スポーツイベントの広報を統一的・広域的に実施し、都民のスポーツ情報に触れる機会を創出
- 地域密着型のプロスポーツチーム等と連携し、試合会場における都施策のPR等を通じて、様々な地域課題の解決に向けた取組を実施

4 競技スポーツの振興 7億 5,019万円

- 東京のアスリートの競技力向上を図るとともに、東京のアスリートが、その経験をもとに地域で活躍し、スポーツの裾野を拡大する循環を創出
- 都内競技団体及び地区体育・スポーツ協会に対し、ガバナンスの確保に資する対応や法人格の取得等、団体の組織基盤強化に係る取組を支援

5 スポーツを通じた被災地交流事業 2,210万円

- 被災県と連携し、東京2020大会の競技会場等を活用して、子どもたちを対象にしたスポーツ交流事業を実施

6 大会のレガシーを継承する取組 3億 3,885万円

- SusHi Tech Square等の都有施設や様々なイベントでアーカイブ資産等の展示を行い、東京2020大会のレガシーを効果的に発信

7 パラスポーツの振興 20億 8,776万円

- 障害者が身近な地域でスポーツができる環境の整備、パラスポーツを支える人材の裾野拡大と質の向上、観戦機会の提供等を通じたパラスポーツの理解促進・普及啓発、国際大会で活躍するパラアスリートの継続的な輩出に向けた競技力向上事業等、パラスポーツを東京2020大会のレガシーとして発展させるため、様々な事業を実施

8 国際スポーツ大会等の開催 54億 1,667万円

【世界陸上・デフリンピックの開催に向けた取組】

- 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック開催に向けて、大会の準備・運営を支援
- 開催1年前を迎える両大会の更なる気運醸成に向けて、体験参加型の企画や情報発信の強化によって、大会の意義や魅力を都民・国民に伝え、共生社会の実現に貢献
- 大会開催を契機としてユニバーサルコミュニケーションを促進するため、関係局や事業者等と連携し、最新のデジタル技術を用いた実証やPRを実施

【国際スポーツ事業の推進】

- 都内で国際スポーツ大会の開催を目指す競技団体等に対し、誘致活動や開催等を支援
- 臨海部において「レインボーライド」を実施するとともに、令和7年度に多摩地域で開催する「THE ROAD RACE TOKYO」に向けて、レースとしての魅力や価値をより高めていくためのコース設計や開催準備等を実施
- ランナー・応援者・ボランティアなど全ての参加者が一体となるスポーツイベントとして、東京マラソン、マラソン祭り等を開催

9 スポーツ施設等の運営 60億 6,386万円

- 都立スポーツ施設の指定管理料等
- 都立スポーツ施設の戦略的活用に向けた取組として、18施設のネットワークを活かした情報発信や共通コンセプトによるイベントの企画・実施等

10 スポーツ施設等の整備 100億 2,663万円

- 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館の大規模改修工事の実施
- 辰巳国際水泳場改修工事の実施
- デフリンピックに向けたアクセシビリティ設備の整備

都庁記者クラブ
JOC 記者会・JSPO 記者クラブ } 同時発表



令和6年3月1日
生活文化スポーツ局

ねんりんピック（第39回全国健康福祉祭）の東京都開催決定！

東京都では、高齢者がいきいきと暮らせる取組を進めていくため、いつまでも自分らしく活躍できるアクティブな長寿（Chōju）社会を実現するための取組を推進しています。

このたび、令和10年度のねんりんピック（第39回全国健康福祉祭）の開催地が、東京都に決定しました。本大会が東京都で開催されるのは初となります。

1 ねんりんピック（全国健康福祉祭）の概要

ねんりんピックは、昭和63年から開催されている60歳以上の高齢者を中心とする子供から高齢者まであらゆる世代の人が楽しめる総合的な祭典です。

実施内容は、スポーツ交流大会のほか、文化交流大会、美術展、音楽文化祭など、文化や各種イベントなどで構成されています。

2 東京大会の概要

- (1) 主催：厚生労働省、東京都、（一財）長寿社会開発センター
- (2) 共催：スポーツ庁
- (3) 開催時期：令和10年10月～11月の間の4日間（予定）
- (4) 実施種目：スポーツ交流大会など 25種目程度（卓球、テニス、ソフトボールなど）
※実施種目及び会場は、今後区市町村と調整の上、決定いたします。
- (5) その他：文化交流大会、美術展、音楽文化祭、各種イベントなど

（参考）今後の全国健康福祉祭の開催予定

令和6(2024)年度 鳥取県

7(2025)年度 岐阜県

8(2026)年度 埼玉県・さいたま市

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。

戦略 4 アクティブ Chōju 社会実現戦略

戦略16 スポーツフィールド東京戦略「スポーツフィールド・TOKYO」プロジェクト

< 問合せ先 >

生活文化スポーツ局 スポーツ総合推進部 スポーツ課 大島・森
電話 03-5388-2416（直通）38-247（都庁内線）



世界陸上・デフリンピック ビジョン2025 アクションブック (概要版)

- ◆世界陸上・デフリンピックのような国際スポーツ大会は、子供たちの夢と希望の育み、ウェルネスの向上、共生社会に向けた歩みの加速など、**大きな価値**をもたらします。
- ◆こうした意義を持つ両大会に向けて、**スポーツの力で東京の新たな未来を切り拓いていく**ため、令和5年2月に、両大会を通じて都が目指す姿を「ビジョン2025」としてまとめました。
- ◆本書は、この「ビジョン2025」で掲げた「**全ての人**が輝く**インクルーシブな街・東京**」の実現に貢献するという目標に向かって、両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた指針となります。

アクションブックのポイント

3 つのConcept

- ◆東京2020大会の**レガシー**を継承・発展
- ◆両大会一体となって
ウェルネスの向上や社会変革を推進
- ◆2025年を機に、東京に**新たなレガシー**を創出



Sports プロジェクト – 両大会を機にウェルネスを向上

【スポーツの価値を再認識】 – 推しスポーツProjectの展開

10 のAction – 両大会を社会変革の推進力に

【みんながつながる】 – ユニバーサルコミュニケーションの促進

- ①大事な情報、伝える工夫 ②デジタルで拓く東京の未来

【世界の人々が 出会う】 – 「TOKYO」の魅力発信

- ③芸術文化に触れ、感じる ④世界に東京の魅力をPR

【こどもたちが 夢をみる】 – 子供たちの大会への参画

- ⑤2025 for キッズ ⑥2025 with キッズ

【未来へつなぐ】 – 持続可能性の取組

- ⑦みんなで守る、みんなの環境 ⑧共に生きる未来を創る

【みんなで 創る】 – 力を合わせて大会を形作る

- ⑨Make it together 2025 ⑩知って、楽しんで、応援しよう！

Sportsプロジェクトの概要

TOKYO FORWARD 2025

推しスポーツ Project

- ◆両大会は、スポーツへの関心を高め、**スポーツの価値を再認識**する好機
- ◆東京全体をフィールドとして、様々なスポーツに親しむ機会を創出
- ◆スポーツの魅力に触れる中で、各人の好みや特性に合った「**推しスポーツ**」を発見

「推しスポーツ」の発見・実施を後押しする 3つの取組

《東京スポーツドック》

体力診断で自身の体力や健康状態を知ってもらい、適性に沿った運動計画などを提供

《Let's play it!》

プロスポーツチームや区市町村などと連携し、一人ひとりにとって「初めての競技体験」への参加を支援

《キッズアスリートプログラム》

陸上トップアスリートなどとの交流や、子供（親子）向け陸上教室などを展開

参考

これらのうち、大会に向けて都が全庁を挙げて連携し、重点的に取り組む事業費（大会連携事業費）の令和6年度分は、約23億円となります。
<主な事業>大会気運の醸成、UCの促進、2025年に向けた文化プログラム、大会を通じた東京の魅力発信、代々木公園陸上競技場の改修 など

10のActionの主な内容

「ビジョン2025」における5つの柱の下に、様々なActionを設定

みんなが つながる

- ①東京2020大会で使用された技術の活用や、**都立スポーツ施設のアクセシビリティ設備整備**を推進
- ②民間企業等と連携した**技術開発**などユニバーサルコミュニケーション（UC）技術の社会実装を促進



世界の 人々が 出会う

- ③2025年に向けた**アートプロジェクトの展開**や、**芸術文化へのアクセシビリティ向上**への取組を実施
- ④大会関連イベントでの**東京産食材の活用**や、大会1年前の機を捉えた**観光プロモーション**を展開



子ども たちが 夢をみる

- ⑤アスリートと子供の交流会や、手話通訳士などを招いた**特別支援学校での特別授業**を実施
- ⑥大会ロゴや大会エンブレムの**デザイン**、選手入場時の**エスコートキッズ**など大会に子供たちが参画

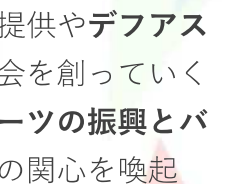


未来へ つなぐ

- ⑦**省エネの徹底**、**再生可能エネルギーの活用**及び**3Rの取組**に加え、**大会の暑さ対策**に向けた調査などを実施
- ⑧東京2025デフリンピック応援アンバサダーや、**デフリンピック学習ハンドブック**を通じ、共生社会の大切さを発信

みんな で 創る

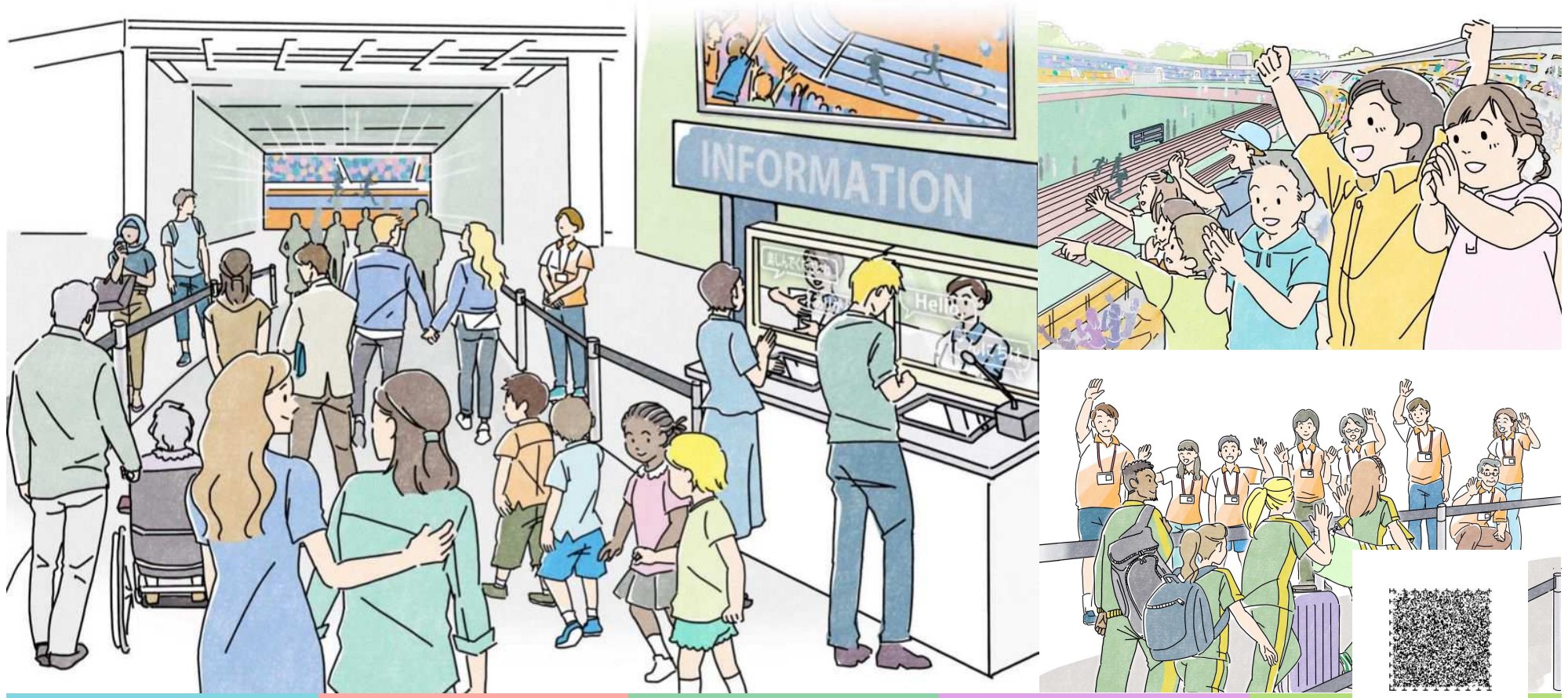
- ⑨多様な人が**ボランティア**として活躍できる機会の提供や**デフアスリートへの支援**などを通じ、様々な人と一緒に大会を創っていく
- ⑩大会1年前の節目の**気運醸成イベント**や**パラスポーツの振興とバリアフリー推進**に向けた懇談会と連携し、大会への関心を喚起





VISION 2025 ACTION BOOK

世界陸上・デフリンピック ビジョン2025 アクションブック



はじめに

2025年、東京で2つの国際スポーツ大会が開催されます。
トップアスリートが集う最高レベルの陸上競技の祭典である、世界陸上競技選手権大会。
デフアスリートによる国際総合スポーツ競技大会である、デフリンピック。

アスリートがもたらす感動と興奮は、次代を担う子供たちの夢と希望に、
両大会を通じたスポーツムーブメントは、都民・国民のウェルネスの向上に、
様々な人々との交流は、互いの違いを認め尊重しあう社会の礎になることでしょう。

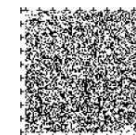
大きな価値をもたらす国際スポーツ大会を盛り上げ、
スポーツの力で、東京の新たな未来を切り拓いていく。
このような視点に基づき、昨年2月、東京都が目指す姿を「ビジョン2025」としてまとめ、
「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献するという目標を掲げました。

本書は、この「ビジョン2025」の目標に向かって、
両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた指針となります。

東京2020大会のレガシーを、2025年に向けて更に発展させていく
「TOKYO FORWARD 2025」という理念の下、
光り輝く未来に向けて、全力で取り組んでまいります。

令和6年1月26日 東京都知事

小池百合子



陸上の選手として、子供たちの未来につながる走りをする事。

そして結果を出すことが大事。

自分の地元東京で開催できる世界陸上。

一人でも多くの子供たちに見てもらいたい大会にしたい。

サニブラウン アブデルハキーム（陸上／短距離走選手）

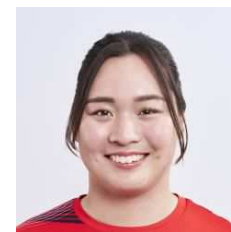


©UDN SPORTS

2025年、東京で新たな歴史の1ページを皆さんと一緒に作れることを楽しみにしています。

そして、少しでも皆さんの心を動かすことができると嬉しいです。

北口 榛花（陸上／やり投選手）



周囲の方の応援やサポートがあってこそ自分です。日本初開催のデフリンピック。
東京の満員の会場で、その感謝の気持ちを結果で示したいです。応援よろしくお願いします。

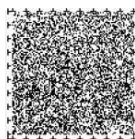
小倉 涼（デフ空手選手）



東京2025デフリンピックを機に、デフスポーツを知ってもらい、
そして聴覚障害者について理解してもらえたら嬉しいです。
観客の皆さんを巻き込みながら、一体となって金メダルを取れるよう頑張ります。

一緒に盛り上げていきましょう！！

岡田 拓也（デフサッカー選手）



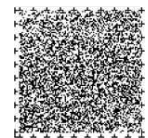
Contents

はじめに …… 001
Road to 2025 …… 004
基本的な考え方 …… 006
推しスポーツ Project …… 008

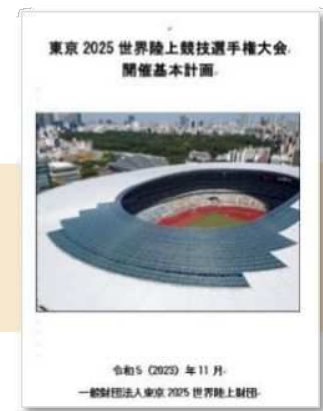
【10のAction】

- 1 **みんなが つながる** …… 010
 - ① 大事な情報、伝える工夫
 - ② デジタルで拓く東京の未来
- 2 **世界の人々が 出会う** …… 014
 - ③ 芸術文化に触れ、感じる
 - ④ 世界に東京の魅力をPR
- 3 **子どもたちが 夢をみる** …… 018
 - ⑤ 2025 for キッズ
 - ⑥ 2025 with キッズ
- 4 **未来へ つなぐ** …… 022
 - ⑦ みんなで守る、みんなの環境
 - ⑧ 共に生きる未来を創る
- 5 **みんなで 創る** …… 026
 - ⑨ Make it together 2025
 - ⑩ 知って、楽しんで、応援しよう！

Topic 様々な取組のご紹介 …… 030



Road to 2025



(一財)東京2025世界陸上財団策定

(一財)全日本ろうあ連盟、東京都、
(公財)東京都スポーツ文化事業団の三者で策定

ビジョン2025

都政の羅針盤である「未来の東京戦略」を踏まえ、両大会を通じて都が目指す姿をまとめた基本方針

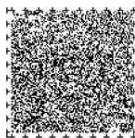
みんなが つながる

世界の人々が 出会う

子どもたちが 夢をみる

未来へ つなぐ

みんなで 創る



開催基本計画

【東京2025世界陸上】

- ◆多くの人々に夢や希望を届ける
- ◆今後の国際スポーツ大会のモデルを示す

【東京2025デフリンピック】

- ◆デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ
- ◆世界に、そして未来につながる大会へ
- ◆“誰もが個性を活かし力を発揮できる” 共生社会の実現

全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ



ビジョン2025 アクションブック (本書)

両大会を通じて都が目指す姿に向けた、
取組の方向性や主要内容などをまとめた
2025年への取組指針

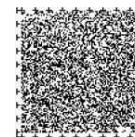


◆世界のトップアスリートが集う陸上競技大会 東京2025 **世界陸上**

日程：2025年9月13日～21日
会場：国立競技場ほか

◆デフアスリートによる国際総合スポーツ競技大会 東京2025 **デフリンピック**

日程：2025年11月15日～26日
会場：主に都内会場
(一部競技は福島県・
静岡県で開催)



基本的な考え方

3 つのConcept

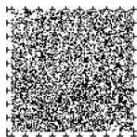
- ◆東京2020大会のレガシーを継承・発展
- ◆両大会一体となってウェルネスの向上や社会変革を推進
- ◆2025年を機に、東京に新たなレガシーを創出

東京2020大会を機にした進化は
素晴らしかった。
人々の心が変わることで、
社会も変えることができるのです。

Andrew Parsons
(アンドリュー・パーソンズ/国際パラリンピック委員会会長)



東京2020大会を機に、
東京のバリアフリーは大きく進展



Tips

2025年ってどんな年？

2025年は、様々な面で重要な意味をもつ年。
例えば、国連で採択されたSDGs「行動の10年」では、2025年がその中間年に当たります。
日本においても、2025年には国民の約3人に1人が65歳以上、約5人に1人が75歳以上となり、社会構造が大きく変化すると見込まれています。
世界のトップアスリート・デフアスリートが集う両大会。障害のあるなしや年齢・性別・国籍にかかわらず楽しめる「世界共通の人類の文化」スポーツを通じて、健康づくりや共生社会への歩み、持続可能性などの取組を進め、東京の明日へつなげていきます。

Sports

+

10

プロジェクト – 両大会を機にウェルネスを向上

【スポーツの価値を再認識】 – 推しスポーツProjectの展開



のAction – 両大会を社会変革の推進力に

【みんながつながる】 – ユニバーサルコミュニケーションの促進

Action

- ①大事な情報、伝える工夫
- ②デジタルで拓く東京の未来

【世界の人々が 出会う】 – 「TOKYO」の魅力発信

Action

- ③芸術文化に触れ、感じる
- ④世界に東京の魅力をPR

【こどもたちが 夢をみる】 – 子供たちの大会への参画

Action

- ⑤2025 for キッズ
- ⑥2025 with キッズ

【未来へつなぐ】 – 持続可能性の取組

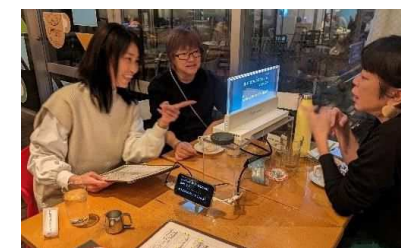
Action

- ⑦みんなで守る、みんなの環境
- ⑧共に生きる未来を創る

【みんなで 創る】 – 力を合わせて大会を形作る

Action

- ⑨Make it together 2025
- ⑩知って、楽しんで、応援しよう！



デジタル技術を活用した
コミュニケーションを体験できるカフェ



世界陸上ブダベスト大会での東京PR

スポーツの力で「全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京」への歩みを加速

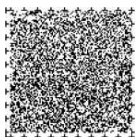


推し[※]スポーツ Project

- ◆世界陸上・デフリンピックの開催は、スポーツへの関心を高め、身体を動かす喜びなど**スポーツの価値を再認識**する絶好の機会
- ◆この好機を捉え、東京全体をフィールドとして「する・見る・支える」の視点から**様々なスポーツに親しむ機会を創出**
- ◆スポーツの魅力に触れる中で、「**都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさ（推しスポーツ）**」を発見してもらえるように支援



一人ひとりが継続的にスポーツへ関わることにより、心身の健康や生き生きとした暮らしの実現など、**都民の健康長寿・ウェルネスの向上を推進**



世界陸上

デフリンピック

世界陸上・デフリンピックを機に一人ひとりに「推しスポーツ」を

Point

- ・統一のプロジェクト名称を冠し、各種イベント情報を一元的に発信
- ・デジタル技術の活用やバリアフリーへの対応など、障害のあるなしなどにかかわらず、誰もがスポーツを楽しめるように
- ・他のスポーツイベント実施主体などとも積極的に連携しながら、都の既存事業についても最大限活用



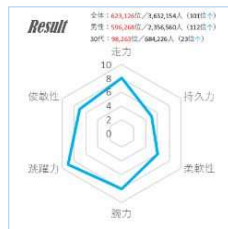
※ 推し：「人に薦めたいほど気に入っているもの」の意味で使用

「推しスポーツ」の発見・実施を後押しする 3つの取組

推しスポーツで健康に

1 ≪ 東京スポーツドック ≫

体力診断を通じて自身の体力や健康状態を知ってもらい、一人ひとりの適性に沿った運動指導と運動計画を提供



すればわかる、そのスポーツの面白さ

2 ≪ Let's play it ! ≫

プロスポーツチームや区市町村などと連携しながら、一人ひとりにとって「初めての競技体験」に、楽しみながら参加できるよう支援



色々なスポーツの体験を子供たちに

3 ≪ キッズアスリートプログラム ≫

陸上トップアスリートなどとの交流や、子供（親子）向け陸上教室など、スポーツを通じて子供の成長を支援



その他、関連する取組

東京ならではのスポーツ体験

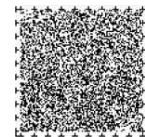
- ・様々な自転車のイベント（GRAND CYCLE TOKYO）や東京マラソンの共催など、東京が有する資源を有効活用し、多くの人を楽しめる魅力的なスポーツコンテンツを提供



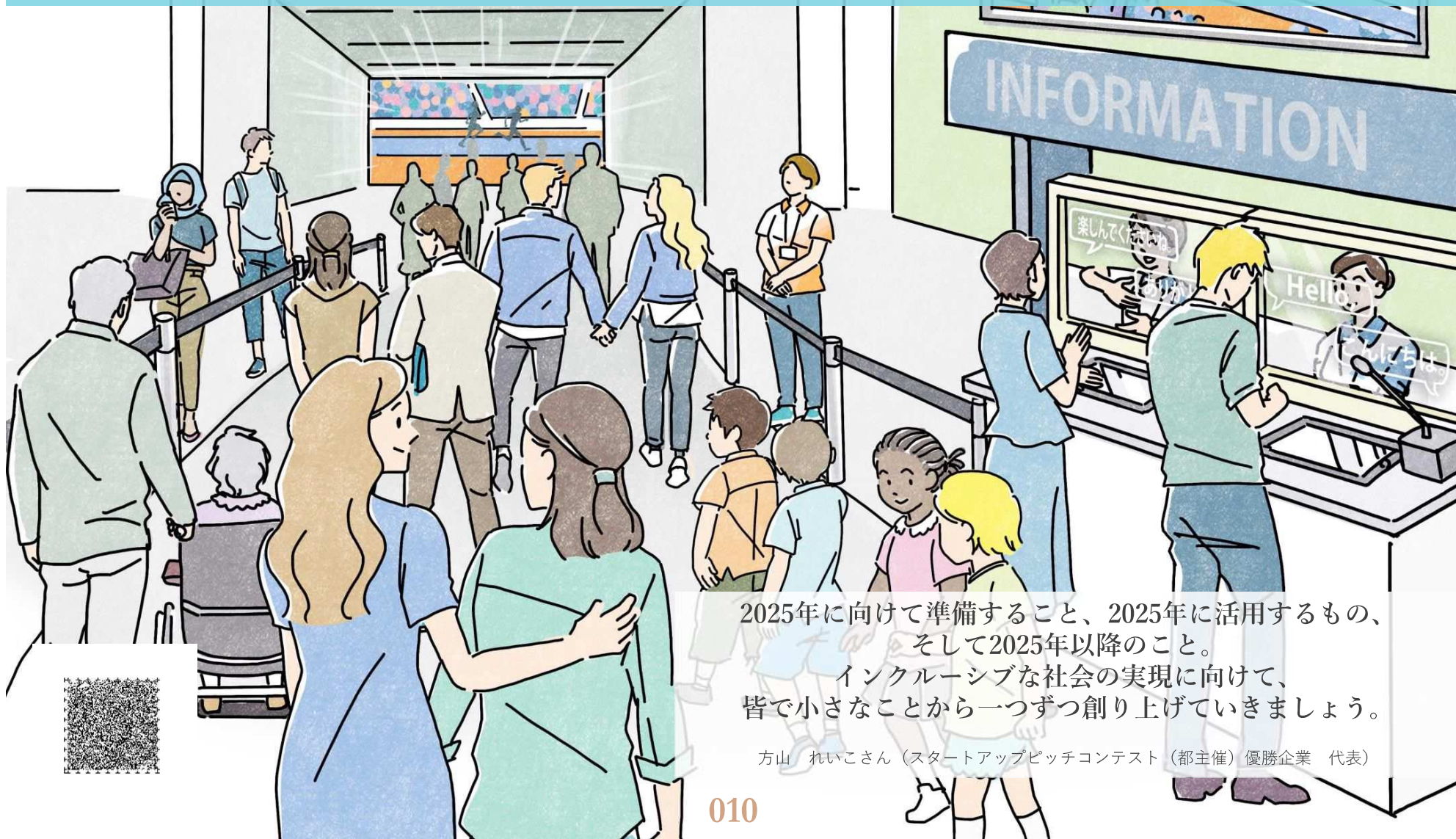
©東京マラソン財団

誰もがスポーツを楽しめるように

- ・バリアフリー対応のコースやアプリを活用し、障害者の日常的なウォーキングを促進
- ・パラスポーツの応援プロジェクトの一環として、障害のあるなしにかかわらず参加できる大会などを開催

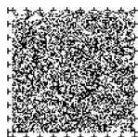


みんなが つながる



2025年に向けて準備すること、2025年に活用するもの、
そして2025年以降のこと。
インクルーシブな社会の実現に向けて、
皆で小さなことから一つずつ創り上げていきましょう。

方山 れいこさん（スタートアップピッチコンテスト（都主催）優勝企業 代表）



『いつでも・どこでも・誰とでも』 つながる街・東京へ

日々進化する様々な技術を両大会で活用することに加え、都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進します。

また、民間企業等と連携した新たな技術の開発や、区市町村などにおける技術活用の促進、国内外への発信などを通じて、ユニバーサルコミュニケーション技術を社会に浸透させていきます。



Action1 大事な情報、伝える工夫

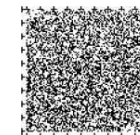
東京2020大会で使用された技術を含めて、様々な技術を両大会で活用することに加え、都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進します。

P.12

Action2 デジタルで拓く東京の未来

ユニバーサルコミュニケーション技術を社会に浸透させていくため、民間企業等と連携した新たな技術の開発や、様々な機会を捉えた技術実証や活用促進、国内外への発信などに取り組みます。

P.13



Action1 大事な情報、伝える工夫

【取組の概要】

東京2020大会で使用された技術を含めて、様々な技術を両大会で活用することに加え、都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備など、誰もが暮らしやすい社会に向けた取組を推進



国際手話
「ありがとう」

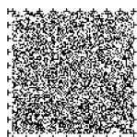
【取組の詳細】

◆大会における情報保障

- ・競技会場での案内や掲示などにビジョンやサイネージを活用し、「やさしい日本語」など誰もが分かりやすい方法で表示
- ・東京2020大会で使用された多言語同時翻訳などの技術を両大会で活用するとともに、国際手話人材の育成にも取り組み、選手や関係者の円滑なコミュニケーションをサポート

◆誰もが暮らしやすい社会へ

- ・都立スポーツ施設に集団補聴設備などのアクセシビリティ設備を整備するとともに、日比谷公園をケーススタディとして、都立公園における窓口対応などを支援する音声認識システムの導入や、新たな情報ツールの活用を検討
- ・誰もが使いやすい駅づくりの実現に向け、ユニバーサルコミュニケーション技術の導入支援など、先進技術の導入を促進する仕組みづくりや都民にわかりやすい情報発信を実施
- ・聴覚障害者の生活利便性向上のため、スマートフォンの活用支援や、都営地下鉄車内におけるドア開閉表示灯の設置拡大などの取組を実施
- ・手話言語の普及促進や都庁舎などでの遠隔手話対応、国際福祉機器展などにおけるPR、都内公共施設バリアフリー情報の発信などの取組を展開



【スケジュール】

	R5	R6	R7
大会での情報保障	情報保障の充実にに向けた検討・準備 国際手話人材の育成		様々な方法や技術を活用し、両大会を運営
誰もが暮らしやすい社会へ	駅における先進技術活用に関する調査	駅におけるUC技術導入支援 更なる仕組みの検討や情報発信	日比谷公園でのケーススタディ
		都内自治体におけるスマートフォン活用支援プログラムの実施	都立スポーツ施設へのアクセシビリティ設備整備、福祉機器展でのPR、バリアフリー情報の発信など

【大会後のレガシー】

- 両大会をモデルとして、今後のスポーツ大会における情報保障が充実
- 誰もがより簡単に、様々な情報を受け取れる社会の実現に向けた歩みが加速

Action2 デジタルで拓く東京の未来

【取組の概要】

民間企業等と連携した新たなユニバーサルコミュニケーション（UC）技術の開発や、様々な機会を捉えた技術実証や活用促進、国内外への発信などを通じて、デジタルを活用したUC技術を社会へ浸透



UC技術の例
(音声翻訳・文字化し、リアルタイムで透明ディスプレイに表示)

【取組の詳細】

◆民間企業等と連携した新たな技術の開発

- ・スタートアップピッチコンテスト優勝企業と連携し、競技音を擬音で表示する技術を開発
- ・「西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアム」において、スマートグラス上に発話内容などを表示する技術を開発

◆様々な機会を捉えた技術の実証や活用促進

- ・東京2025デフリンピック2年前の取組「みるカフェ」（デジタル技術で言語を見える化したカフェ）の実施や、スマートグラスによる聴覚障害者向けサービスの実証
- ・都庁舎や都営地下鉄駅の窓口などにUC技術を導入
- ・区市町村や駅などにおけるUC機器導入を支援

◆国内外への発信

- ・両大会でUC技術を活用している様子を広く発信
- ・デフリンピックにおける選手同士の交流や、都民・国民が大会を体感できる拠点となる「デフリンピックスクエア」において、技術の展示やPRを実施



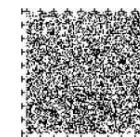
競技音を擬音で表示する技術

【スケジュール】

	R5	R6	R7
技術開発	民間企業などと連携した技術開発		開発した技術を活用・PR
技術の実証・PR	イベントなどの場を活用した技術の実証やPR 都庁舎窓口などへのUC技術導入 区市町村などにおけるUC機器導入支援		
大会時の活用状況の発信	競技会場やデフリンピックスクエアに● おける活用・発信		

【大会後のレガシー】

- UC技術の有用性や将来性などが認知され、企業の技術開発などが活発化
- 国籍や障害などにかかわらず、誰もが分け隔てなくコミュニケーションを取ることができ、技術が普及



せ かい ひと びと で あ
世界の人々が 出会う



世界中から訪れる方々と手話言語や様々な方法で語り合うことで、
遠くにいるのにわかりあえる、そんな出会いがたくさん生まれることでしょう。
文化が耕され、出会いによって新たに芽吹く、
そんな景色が待ち遠しいです。

和田 夏美さん（手話通訳士／インタープリター）

何度でも訪れたいくなるTOKYOへ

東京2020大会のレガシーを継承・発展させた新たな文化プログラムの展開や、国内外から大きな注目が集まる両大会の機会を捉えたPRを通じて、東京の持つ多彩な魅力を伝えていきます。

TokyoTokyo Old meets New

Action3 芸術文化に触れ、感じる

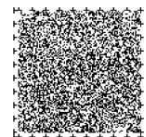
両大会が開催される2025年に向けて3つのアートプロジェクトを展開するとともに、誰もが芸術文化を楽しめる環境の整備を進めていきます。

P.16

Action4 世界に東京の魅力をPR

大会関連イベントなどで東京産食材や都伝統工芸品を活用するとともに、両大会開催1年前など、様々な機会を捉えた東京のプロモーションを展開していきます。

P.17



Action3 芸術文化に触れ、感じる

【取組の概要】

より多くの人々が芸術文化に親しむ環境が整い始めるなどのレガシーを残した、東京2020大会の文化プログラム。これを継承・発展させた新たな取組を展開し、東京の持つ芸術文化の魅力発信や共生社会の実現に向けた歩みを進めるとともに、両大会を盛り上げ



アートプロジェクトのイメージ

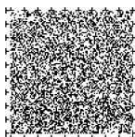
【取組の詳細】

◆2025年に向けて3つのアートプロジェクトを展開

- ・誰もが気軽に芸術文化を楽しめ参加できる取組として、「まつり」をテーマとしたイベントを開催。様々なまつりの見どころを凝縮したパフォーマンスなどを披露することで、一体感を創出
- ・「聴覚障害者にとっての音楽」をテーマにした舞台を創作。また、きこえる人ときこえない人が相互理解を重ねながら創作する過程を記録し、協働のモデルケースとして発信
- ・東京2020パラリンピック開会式のスタッフ・キャストが集い、多様な個性が共に生きる社会への想いを舞台化

◆芸術文化へのアクセシビリティ向上

- ・誰もが芸術文化を楽しめる環境を整備するため、公演などの鑑賞を支援するツールの導入や、情報保障付きプログラムの拡充などを推進
- ・民間文化施設などでの鑑賞サポート提供経費への助成事業を創設。鑑賞サポートの提供ノウハウなどに関する講座の開講や、専門団体などと連携した相談対応も実施
- ・都立文化施設や助成事業における取組内容や成果を周知・発信



【スケジュール】

	R5	R6	R7
アートプロジェクト	企画内容検討	実施内容の調整やPRなど イベントの開催● （「まつり」イベントは9月、 その他は11月予定）	
アクセシビリティ向上	企画内容検討	鑑賞を支援する環境整備 助成関連事業の開始 取組内容や成果の周知・発信	

【大会後のレガシー】

- 芸術文化へ親しみを持つ人が増加するとともに、障害のあるなしにかかわらず芸術文化活動の実施事例が蓄積
- 鑑賞サポートの提供が社会全体で増加するとともに、ノウハウの蓄積や人材育成などが進み、継続的な取組に向けた土台が構築

Action4 世界に東京の魅力をPR

【取組の概要】

国内外から大きな注目が集まる両大会開催の機会を捉え、食や伝統文化といった東京の多彩な魅力を効果的に発信



【取組の詳細】

◆大会関連イベントなどでのPR

- 東京2025世界陸上における国内外メディア向け説明会や、東京2025デフリンピックの選手団団長セミナー（大会1年前に、各国選手団の団長が集まる会議）などにおいて、東京産食材や都伝統工芸品、東京の観光資源などのPRを展開

◆様々な場面で東京をプロモーション

- 世界陸上ブダペスト大会などで東京の魅力を発信
- 国際スポーツ大会が開催される日本各地の会場周辺の観光情報やスポーツ体験情報などを発信するホームページ「Japan Sports Journey」内へ、両大会の特設ページを設置
- 両大会1年前の機会を捉えたオンラインメディア・機内誌などへの広告出稿や、観戦客来訪に合わせた観光情報の発信、大会開催に合わせたメディアツアーなどを展開



ブダペスト大会でのPR



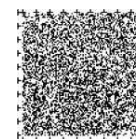
東京産食材の提供イメージ

【スケジュール】

	R5	R6	R7
東京の 魅力発信	●世界陸上ブダペスト大会でのPR メディア向け説明会や● 選手団団長セミナーでのPR	機内誌などへの広告展開● (両大会1年前)	「Japan Sports Journey」 両大会特設ページ 大会開催時の都市PR●

【大会後のレガシー】

- 両大会を通じて東京の持つ多彩な魅力を発信し、東京産食材や都伝統工芸品の需要拡大、訪都旅行者数の増加に貢献

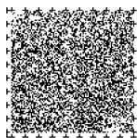


こどもたちが ゆめ 夢をみる



今の自分の夢は「足を速くする」。
とても単純に聞こえますがとても難しいことであり、
極めれば極める程0.1秒を縮めるために何年と掛かるのです。
多様性のある素晴らしい場で戦い、勝ちたい、メダルを獲りたいと思います。

榎橋 径徒さん（デフ陸上ジュニア選手）



夢と希望にあふれた次世代の東京へ

子供たちが大会を通じて多くのことを学び、成長することをサポートしていけるよう、学校における学びの機会を設けるとともに、大会にとって大切な役割に子供たちが参画するなど、様々な取組を展開していきます。



Action5 2025 for キッズ

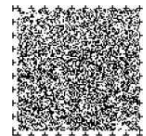
イラストを活用した両大会の特設ホームページなど、子供たちに大会の意義や魅力、スポーツの素晴らしさなどを伝える取組を進めるとともに、ろう学校をはじめ、学校教育における様々な場面で学びを提供します。

P.20

Action6 2025 with キッズ

両大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレムのデザイン、選手入場時のエスコートキッズなど、大会にとって大切な役割に参画する機会を設け、子供たちが大会の一員として活躍します。

P.21



Action5 2025 for キッズ



両大会の特設ホームページ

【取組の概要】

子供たちが大会を通じて多くのことを学び、成長することをサポートしていけるよう、大会関連イベントやスポーツイベントにおけるコンテンツの充実、デフアスリートを招いた学校での学びの機会など、様々な取組を展開

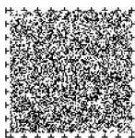
【取組の詳細】

◆スポーツの素晴らしさを子供たちに

- イラストを活用した特設ホームページやSNS用のスタンプ、大会関連イベントでの体験・体感コンテンツなど、子供たちをはじめ、誰もが両大会の魅力を感じられる取組を展開
- 子供とアスリートとの交流会や、子供向け陸上教室など、子供が様々なスポーツを体験できるイベントなどを展開

◆学校における学び

- ろう学校にデフアスリートを招き競技体験や講演などを実施
- 東京2025デフリンピック開催時の、海外の聴覚障害者とのコミュニケーションや、選手・ボランティアなどとしての参加を見据え、ろう学校で国際手話などのコミュニケーションスキルを身につけるための特別授業を実施
- 盲学校でのパラスポーツやろう学校でのデフスポーツを実施するため、各校における競技器具を充実
- 聴覚障害やデフリンピックの理解に関する映像教材を作成し、都内公立学校に配信
- 学校が希望する体験機会を提供する「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」に、両大会に関連するプログラムを導入



【スケジュール】

	R5	R6	R7
大会などを通じた取組	大会特設HPや大会関連イベントでの体験・体感コンテンツなど		
学校を通じた取組	ろう学校での競技体験・講演・特別授業など		
	映像教材作成	学校での活用（～R8年度）	
	実施	体験活動プロジェクト 充実（大会関連含む）	

【大会後のレガシー】

- 次代を担う子供たちが、大会を通じて、スポーツの素晴らしさや、障害のあるなしなどにかかわらず互いに尊重しあうことの大切さ、多様性などを学び、健やかに成長

Action6 2025 with キッズ

【取組の概要】

両大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレムのデザイン、選手入場時のエスコートキッズなど、大会にとって大切な役割に多様な子供たちが参画し、大会の一員として活躍



(左)
東京2025デフリンピック
大会エンブレム

(右)
東京2025世界陸上
ロゴデザイン・
ロゴ選定委員の公募
(©2023一般財団法人
東京2025世界陸上財団)

【取組の詳細】

◆子供たちと創る大会

- 東京2025世界陸上のロゴコンセプトにジュニア陸上選手の思いを反映し、そのコンセプトを基にデザインを公募。また、東京2025デフリンピックの大会エンブレムを、国内唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である筑波技術大学の学生がデザインし、都内中高生の投票により決定するなど、大会のシンボル制作に子供たちが参画する取組を展開
- 両大会で展開していく取組などについて、子供たちの意見も聞きながら検討

◆子供たちと大会を盛り上げる

- 大会関連イベントなどで集めた子供たちからのメッセージを選手に届けるとともに、会場での盛り上げなどに活用
- 都内や被災地の子供たちが、会場で観戦する機会を設ける
- 選手入場時のエスコートキッズやメダルセレモニーの役割を子供たちが担うなど、子供や若者の参画を幅広く展開



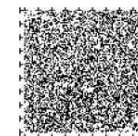
東京2025デフリンピック
大会エンブレム投票グループワーク
発表イベント

【スケジュール】

	R5	R6	R7
様々な参画		●デザイン発表（5月予定） 世界陸上ロゴデザインの公募・選定	
		●デフリンピック 大会エンブレムの決定	
			大会関連イベントなどを通じた 子供たちから選手へのメッセージ
			大会開催時の参画● (子供たちによる会場での観戦など)

【大会後のレガシー】

- 大会にとって大切な役割を担うことや、アスリートと特別な時間を共有するなど、大会ならではのまたない経験を通じて自信や勇気を培った子供たちが、明日の東京を創っていく



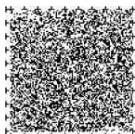
み らい

未来へ つなぐ



英語を覚えてみるように、フランス語を覚えてみるように、
手話言語を少しでも習得することで一気に世界が広がる、そんな感覚を覚えています。
人と人の輪を繋いでいくことは大変楽しいです。
2025年、みんながともにスポーツとコミュニケーションを楽しむ社会の実現に向けて、
私と一緒に一歩踏み出してみませんか？

長濱 ねるさん（東京2025デフリンピック応援アンバサダー）



たくさんの国際スポーツ大会が楽しめる街へ

両大会が「未来へつながる大会」として、今後の国際スポーツ大会のモデルとなるよう、エコでコンパクトな大会の実現や、共生社会に向けた効果的な発信、多様な人々との交流イベントなどの取組を幅広く展開していきます。



Action7 みんなで守る、みんなの環境

両大会を環境に配慮したエコでコンパクトな大会にするため、省エネルギーの徹底や使い捨てプラスチックの削減などに取り組むとともに、それらの取組を広く国内外へ発信していきます。

あわせて、大会における暑さ対策を推進していきます。

P.24

Action8 共に生きる未来を創る

国籍や障害のあるなしなどにかかわらず、誰もが互いの違いを認め、尊重しあう共生社会の実現に向け、「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」を通じた発信や、障害のあるなしにかかわらず参画できるイベントなどを展開します。

P.25



Action7 みんなで守る、みんなの環境



【取組の概要】

両大会を環境に配慮したエコでコンパクトな大会にするため、省エネルギーの徹底や使い捨てプラスチックの削減などに取り組むとともに、それらの取組を広く国内外へ発信。あわせて、暑さ状況に関する調査結果などを踏まえた、大会における暑さ対策を推進

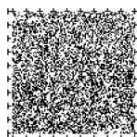
【取組の詳細】

◆環境への配慮

- ・省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの活用、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進、使い捨てプラスチックやフードロスの削減などに取り組む
- ・既存の施設や物品を最大限活用するとともに、新たに調達が必要な場合でもリースやレンタルを基本とする
- ・大会における象徴的な取組などを、広く国内外へ発信

◆暑さ対策

- ・路上競技沿道における観客の熱中症予防に向け、必要な対策を検討し、大会における暑さ対策を推進



【スケジュール】

	R5	R6	R7
環境への配慮	→ 各種取組に関する 詳細内容などの検討・調整		大会における 取組の徹底・ 発信
暑さ対策		→ 調査実施・ 計画作成・ 関係者調整など	大会における暑 さ対策を推進

【大会後のレガシー】

- 大会での取組や発信を環境配慮に関する意識啓発や気運醸成につなげ、持続可能な社会への歩みを加速
- 大規模イベントにおける各種取組を通じたノウハウや知見の蓄積

Action8 共に生きる未来を創る

【取組の概要】

国籍や障害のあるなしなどにかかわらず、誰もが互いの違いを認め、尊重しあう共生社会の実現に向け、東京2020大会を契機としたハード・ソフト両面からのバリアフリーの取組や現状も踏まえ、効果的な取組を幅広く展開



東京2025デフリンピック応援アンバサダー
(左から長濱ねるさん、川俣郁美さん、KIKI、朝原宣治さん)

【取組の詳細】

◆共生社会の大切さを発信

- デフスポーツや手話言語に理解のある人などを「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」として起用するとともに、デフアスリートの活躍や聴覚障害者の社会活動などを紹介
- 子供を含めた幅広い世代が手話言語に親しみを持てるよう、手話単語にふれることができる動画や、デフリンピック学習ハンドブックなどを制作
- 心のバリアフリーに関するポスターコンクールや、心のバリアフリーに取り組む企業を「サポート企業」として登録・連携する取組などを展開
- 都内在住の外国人などに役立つ情報を発信する「東京都多文化共生ポータルサイト」を運営

◆交流イベントなどの展開

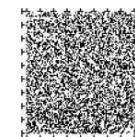
- 「みるカフェ」や、障害のあるなしにかかわらず一緒にスポーツを楽しむアスリート交流会など、多様な人々が広く参加できる取組を展開
- ファミリー層や若者が集う商業施設などで、障害者理解に関する啓発イベントを開催するとともに、都立大学と連携して、共生社会の実現に向けた意識調査などを実施

【スケジュール】

	R5	R6	R7
共生社会の発信	応援アンバサダー、特設ホームページ ハンドブックなどの制作・活用 心のバリアフリーに関する各種取組 多文化共生ポータルサイトの運営		
交流イベントなど	●みるカフェ	●大会1年前の取組	●アスリート交流会
	啓発イベント、意識調査など		

【大会後のレガシー】

- 多様な人々の想いに触れたり、異なる生活や文化について学ぶことに加え、実際に交流することなどを通じて相互理解が一層進み、共生社会実現への歩みが加速



みんなで ^{つく} 創る



私たちの笑顔の活動は、大勢の参加者の素敵な思い出の一つに。
そして、それが私たちボランティアの大きな達成感に。
世界からのアスリートや応援・観戦者と触れ合う機会を、
ボランティア活動で一緒に楽しみましょう。

西野 俊治さん（東京2020大会シティキャスト・フィールドキャスト）

スポーツを通じてつながる街・東京へ

観客の応援やボランティアのおもてなしは、大会を支える大切な要素です。

多くの都民・国民に大会に参画してもらえるよう、ボランティアなどの仕組みづくりや大会の盛り上げに向けた取組を進め、みんなで力を合わせて「私たちの大会」を創っていきます。



Action9 Make it together 2025

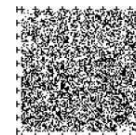
東京2020大会を通じて広がったボランティア文化を、両大会で継承・発展させていくとともに、様々な人々と一緒に大会を創りあげていくための取組や仕組みづくりを進めます。

P.28

Action10 知って、楽しんで、応援しよう！

多くの都民・国民に大会に参画してもらえるよう、大会やスポーツを盛り上げる取組を進めるとともに、様々な主体やイベントなどと連携しながら、大会への関心を高める取組を幅広く展開していきます。

P.29



Action9 Make it together 2025

【取組の概要】

東京2020大会を通じて広がったボランティア文化を、2025年の両大会で継承・発展するとともに、アスリートや障害のある方といった当事者をはじめ、子供たちや企業など、様々な人々と一緒に「私たちの大会」を創出



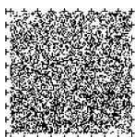
【取組の詳細】

◆ボランティア文化の継承・発展

- 東京ボランティアレガシーネットワーク (VLN) などを通じて、幅広い層に訴求するコンテンツや、ボランティア同士の交流・つながりを深める場を提供
- 障害のあるなしや年齢、国籍などにかかわらず、多様な人々が大会のボランティアとして活躍できる機会を提供

◆様々な人々と一緒に創る大会

- デフアスリートやデフ競技団体の活動などを支援し、大会での活躍を後押し
- 大会を支える人々の努力や、聴覚障害者の社会活動の様子などを両大会の特設ホームページで発信
- 大会のシンボルとなる大会ロゴや大会エンブレムを、子供たちや当事者をはじめとした様々な人々と一緒に制作
- デフスポーツや手話言語に理解のある人などを「東京2025 デフリンピック応援アンバサダー」として起用
 - 最新の技術を活用し、重度障害などがある人も大会へ参画
 - 寄附やクラウドファンディングのPRなど、多くの人々が参画しやすい環境を整える



【スケジュール】

	R5	R6	R7
ボランティア関係の取組	VLNの運用やイベントなどの開催 多様な人々がボランティアとして活躍 ●		
様々な人々と一緒に創る	デフアスリートなどへの支援 応援アンバサダーや特設ホームページによる発信 → ●デザイン発表 (5月予定) 世界陸上ロゴデザインの公募・選定 ●デフリンピック 大会エンブレムの決定		

【大会後のレガシー】

- 東京2020大会で広がったボランティア文化の発展により、一人ひとりが互いに支えあう社会づくりがさらに進捗
- デフスポーツの普及や競技レベルの向上が進むなど、デフスポーツの振興に貢献
- 大会を通じて、寄附文化が社会に一層浸透

Action10 知って、楽しんで、応援しよう！

【取組の概要】

多くの都民・国民に大会に参画してもらえるよう、大会の歴史や特徴、魅力などを分かりやすく伝えるとともに、様々な主体やイベントなどと連携しながら、大会への関心を高める取組を幅広く展開



区市町村主催イベントでの連携の様子

【取組の詳細】

◆大会やスポーツで盛り上がる

- ・大会への注目度が高まる開催1年前の節目などの機会を捉え、様々な広報や気運醸成イベントなどを展開
- ・アスリートと子供たちとの交流、デフリンピックの競技体験など、実際に大会の特徴や魅力を感じられる取組を実施
- ・大会の特設ホームページや、大会エンブレムなどを用いた様々なPRツールなどを通じて、大会の意義や魅力を効果的に発信するとともに、大会開催時の盛り上げにも活用
- ・東京2020大会を契機としたスポーツへの関心の高まりも踏まえ、より多くの方が気軽にスポーツに親しめるよう、都立公園陸上競技場などの施設改修を実施

◆様々な連携

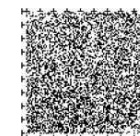
- ・「SusHi Tech Tokyo 2024」や区市町村、関係団体などと連携し、大会の魅力などを幅広く発信
- ・「パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会（パラバリ懇）」において、両大会をテーマとした意見交換を行うとともに、懇談会メンバー（パラ応援大使）による大会関連イベントへの参加を通じて、幅広い層へ情報発信

【スケジュール】

	R5	R6	R7
大会やスポーツの盛り上げ		大会1年前の取組● → 広報PRツールを活用した発信	→ 都立公園陸上競技場などの施設改修
様々な連携		● SusHi Tech Tokyo 2024における発信など → 区市町村との連携（随時）	→ パラバリ懇・パラ応援大使による発信（随時）

【大会後のレガシー】

- スポーツへ関心を持つ人が増加し、継続的な応援や運動の実践、健康づくりなどに貢献
- デフスポーツを含むパラスポーツの振興や幅広いバリアフリーが更に進捗



Topic

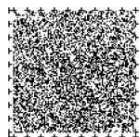
ユニバーサルコミュニケーションを体験し、
共生社会への理解を促す

みるカフェ

「みるカフェ」とは、デジタル技術を活用して言語を見える化し、きこえる・きこえないにかかわらず誰もがつながることができるカフェ。東京2025デフリンピック開会2年前の取組として、東京・原宿に期間限定でオープンしました。

カフェでは、音声をリアルタイムでディスプレイ上に表示する技術や、手話言語をテキストに変換する技術など、様々なデジタル技術を活用。

4,000名を超える方々にご来場いただくとともに、お越しいただいた方からは、「きこえる人に対しても、きこえない人に対しても優しい環境で、とても良かった」などのお声も届きました！



透明ディスプレイを使ったコミュニケーション

Topic

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック
それぞれの大会を象徴するシンボルマーク

大会のロゴやエンブレムを、子供たちと

34年ぶり、2回目の東京開催となる**東京2025世界陸上**。この大会ロゴのデザインコンセプトに、ジュニア陸上選手の大会への思いを反映。さらに、新たな歴史を皆さんとともに創りたい…そんな思いを込めて、ロゴデザインやロゴ選定委員を公募しました。ロゴは令和6年5月に発表予定。どのようなデザインとなるか、お楽しみに！

東京2025デフリンピックの大会エンブレムは、聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である筑波技術大学の学生がデザインを制作し、都内中高生の投票により決定しました。

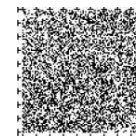
大会エンブレムは、人々の繋がりを意味する「輪」がテーマ。デフコミュニティの代表的シンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁がモチーフです。



東京2025世界陸上
ロゴデザイン・ロゴ選定委員の公募
(©2023一般財団法人 東京2025世界陸上財団)



東京2025デフリンピック 大会エンブレム



(参考) 大会の基本情報など

世界陸上競技選手権大会

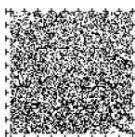
- ワールドアスレティックス (WA) が主催し、2年毎に開催
- 第1回は、1983年にフィンランドのヘルシンキで開催
- 2025年の大会は、20回目の大会
- 世界で約10億人が視聴、3,000名規模のボランティアが参加
- 東京での開催は1991年大会以来。日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目

東京2025世界陸上

開催期間	: 2025年9月13日～21日 (9日間)
種目の数	: 49種目
選手の数	: 約210か国・地域、約2,000人
競技を行う会場	: 東京・国立競技場 (マラソン、競歩は東京都内での実施を予定)
招致した団体	: (公財) 日本陸上競技連盟
大会運営組織	: (一財) 東京2025世界陸上財団

デフリンピック

- 国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年にフランスのパリで開催
- 2025年の大会は、100周年の記念すべき大会。日本では初めての開催
- 手話言語のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴



東京2025デフリンピック

開催期間	: 2025年11月15日～26日 (12日間)
競技の数	: 21競技 (陸上や水泳など)
選手の数	: 70～80か国・地域、約3,000人
競技を行う会場	: 主に都内会場 (サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施)
招致した団体	: (一財) 全日本ろうあ連盟
大会運営組織	: (一財) 全日本ろうあ連盟 (公財) 東京都スポーツ文化事業団

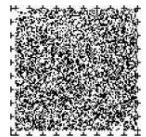


ビジョン2025 アクションブック



令和6（2024）年1月発行

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部国際大会課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電 話 03(5320)6224
E-mail S1120901@section.metro.tokyo.jp





TOKYO
FORWARD
2025

世界陸上 デフリンピック

1 条例名称の改正

【改正の経緯】

- 平成30年6月 スポーツ基本法及び国民の祝日に関する法律を改正
世界的に広く用いられている「スポーツ」の語を基本的に用いるべく、「国民体育大会」を「国民スポーツ大会」、「体育の日」を「スポーツの日」と改める等の改正が行われた。
- 令和2月1月 国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律が施行（体育の日→スポーツの日）
- 令和5月1月 スポーツ基本法の一部を改正する法律が施行（国民体育大会→国民スポーツ大会）

スポーツ基本法や国民の祝日に関する法律の改正に加え、2025年に世界陸上及びデフリンピックが開催されるなど、都を取り巻くスポーツ行政の実情を踏まえ「東京都体育施設条例」を「東京都スポーツ施設条例」に改正

2 東京辰巳アイスアリーナの新設

東京辰巳国際水泳場を廃止し、新たに東京辰巳アイスアリーナの名称、位置及び利用料金の上限額を規定

3 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館の改修

駒沢オリンピック公園総合運動場体育館の改修に伴い、利用料金の上限額等を規定

4 施行期日

令和6年4月1日

ただし、東京辰巳アイスアリーナの新設に係る改正規定は東京都規則で定める日